男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

6—695

廓清

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正十一年八月十日印刷）
（大正十一年八月十日發行）
（毎月一回十日發行）

第十二卷　第七·八號

□今後婦人の問題……廓清會長　島田三郎
□根本的改革の精神……同　島田三郎
□再産兒制限論……同副會長　安部磯雄
□婦人運動の倫理……文學博士　藤井健治郎
□火星人の生活……廓清會理事　内ケ崎作三郎
□諺に現れた女……廓清會理事　高島米峰
□犯罪者の救濟……法學博士　平沼騏一郎
□日本人の最大缺點……文學博士　幣原坦
□藝妓周旋業……木藤冷劍
□歴史と小説……德富猪一郎
□家庭の教育……青山女學院學監　塚本はま子
□婦人と化粧……至誠病院長　吉岡彌生
□編輯の後……

東京　廓清會本部　發行

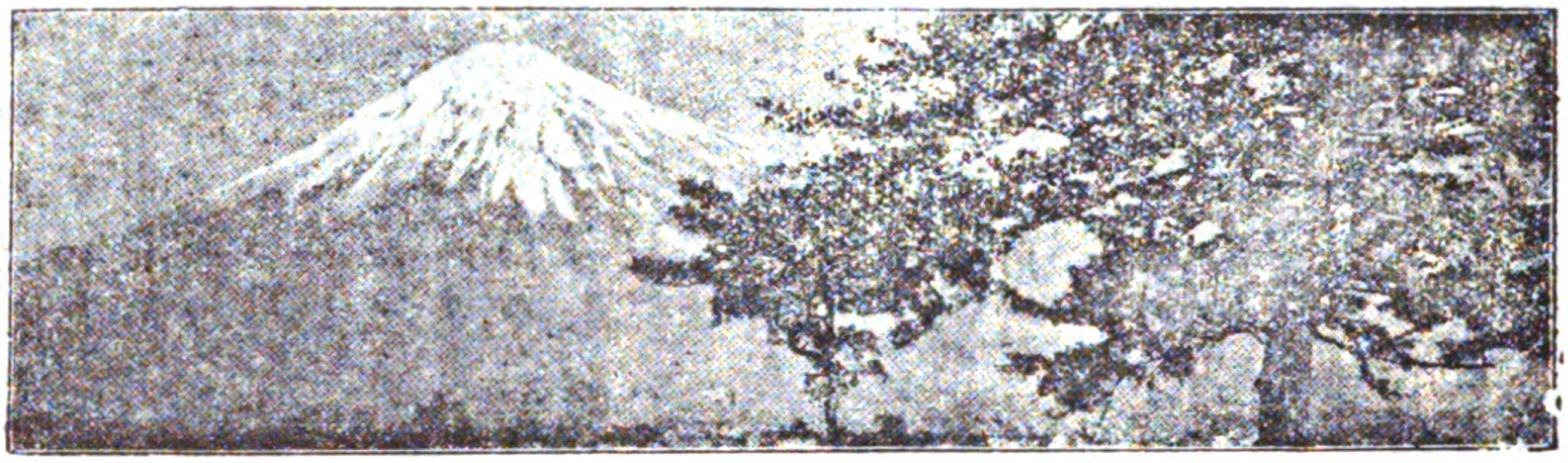
Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ライオン煉歯磨

趣味と衛生とを兼ねた
ライオン煉歯磨の時代がまゐりました。

ライオン煉歯磨は幾多の外國製品を驅逐して、「國産第一の精華」たる實をしめしました。

ライオン歯磨本舗　株式會社　小林商店



今後婦人の着手すべき問題

廓清會長　島田三郎

□治警第五條の改正

治警第五條の改正は、文字少なく短句の削除であるが、日本の社會史から云つても、婦人運動のそれから云つても極めて重大なる事柄である。

從來、我國に於ける婦人の教育は明治の初年から政府が是を奬勵した。それ故女子師範高等女學校の如きものを起し、高等の教育を授くる事に苦心をした。次いで女子大學校が創立されると共に、外國語を專門に教へる高い程度の婦人の學校も民間の有識者によつて世に現はれた。由來我國に於ては明治の初年即ち學制發布の當初の時代から、女子も男子と同等の理想を以て教育すると云ふ方針をとつて來た。それは一點疑ふ餘地のない明白な事實である。

然るに社會に於ける婦人の地位はどうであるかと云へば、是とは全然反對である。即ち婦人は公の人として扱はれなかつた。婦人の社會に於ける地位は極めて低く、其の道德の規範となつたものも男子のそれとは餘程調子を低くした『良妻賢母』と云ふ事に過ぎなかつた。それ故婦人は窮屈な『家庭』と云ふ一區劃に押しこめられて、成るべく外氣に觸れしめぬやうに『家庭の人』として教育されて來た、斯うして永年の間教育されて來た爲めに、婦人は『家庭の人』としての第二の天性を形造つた。そこで婦人自身も『社會の人』として活動する能力を失つて了つた處から、家庭内に閉籠る事を以て己が天命であるかの如くに考へ、社會と云ふ外の世界に出て行くことを自分からも嫌ふやうになつた。

□祝福されたる今後の婦人

婦人を外氣に觸れしめないやうに教育する事は、今の時代の人生觀から云へば同意し難い事で

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

あるが、是は我國に於て許りでなく歐洲に於てもさう云ふ時代があつた。卽ち基督教會などでも婦人を說敎壇に立たしめない、公衆の面前に於て說敎することを禁じてゐたと云ふやうな事が其の一例である。何れにもせよ斯う云ふ事は野蠻制度に異ひないから、新教が勃興するにつれて、その人類平等の理想的信條により新派の各教會では、婦人が說敎する事を自由に許すやうになつて來た。斯く改められた事は當時の社會狀態から云へば非常に進步した事の一つであつた。更に他の方面に於ても、婦人に開放された社會生活は數限りもなく多かつた。さうして進んで行つた結果、政治上に活動する婦人を見るやうになつたのは、社會の爲め且は婦人の爲め祝福すべき事であつた。

我國にては例の治警五條によつて、婦人は政談を聽く自由を禁ぜられて居た。勿論、自分から演壇に立つて政談演說をする自由のなかつたのは云ふ迄もない。斯く婦人には聽感能力の束縛あり、言語能力の束縛があつて社會に於ける地位は眞に悲慘なものであつた。

是が今度解禁されて、婦人も政談を聽くの自由あり、又進んで自ら試むるの自由ありと云ふ事になつたのであるから、婦人にとつて是程祝福すべき事はない。同時に非常に深い意味がある。卽ち治警五條の改正は日本の社會史から云つても婦人運動から云つても、極めて重大な事柄であると私の云つたのは此意味からである。是を端緒として婦人は更に進んで社會に於ける自己の地位を獲得しなくてはならない。治警五條の改正が婦人の公生涯に出る門戸となるなら甚だ幸な事であらう。兎に角、此改正を見たのは新しい婦人連の活動にもよる事であるが、同時に、時代に目覺めたる男子の同情が其處に集まつたと云ふ事にも大なる原因がある。故に婦人は各自自覺して一度得たる此特權を失はざるやう、且は是を有效に行使せらるゝやう私は切に祈る者である。

□先づ婦人の領分より着手せよ

たゞ遺憾とするは新婦人連が、是を記念する演說會を先頃開き、自身、壇上に立つて政談を試みたが遂に成功を得なかつたと云ふ事である。是は『婦人が語るから行つて見やう』と云ふ好奇心に驅られた聽衆もあつた事にも因らう。必ずしも同情者許りでなかつたのにも因らうが、何れにせよ。社會に足を踏み出す最初の集會に當つて、其の門出が甚だ振はなかつたのは、婦人運動に希望を屬する者にとつては甚だ遺憾な事であつた。勿論、誰がやつても最初から完全な成功は望めないし、又、望む者が無理なのであるから、婦人たる者大いに自重して今後益々奮鬪せらるゝやうに希望する。

我國の婦人が是からどう云ふ方面に運動の手を伸ばして行くかは知らぬが、私の考へとしては、婦人に密接の關係ある方面から始めて戴きたいと思ふのである。歐米に於ける婦人運動の成功は何であるかと云へば、特に婦人の領分である問題から手をつけたと云ふ事にあつた。そこから始める事が婦人にとつても最も着實な態度であり、且有利な結果を得ると云ふ事にもなるであらう。

それ故、私自身が考へて婦人の領分であると思はれる問題

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に就て、以下少しく卑見を述べて見たい。

□教育風俗禁酒衛生

第一は教育問題である。婦人の天分は何處にあるかと云へば、云ふ迄もなく家庭の教育者たるにあると思ふ。他人の子を教育しないにしても、自分の子の教育丈けは天性の職分としてやらねばならぬ義務を持つてゐる。是は小さな問題のやうに思つてゐる者があるかも知れないが、決してさうてはない。是は婦人にとつても、人類全體にとつても非常に神聖て且重大な事件てある。云ふ迄もなく家庭は子供を教育する所てあるが、更にそれを押し擴めて同じ我子を教育する學校の諸制度、並に一般教育問題に就ても、婦人の改革に俟つものが多い。此點に就て現代教育の缺陷は何れにありや、又、如何にして其の缺陷を補ふべきか。是らの根本を捉へて婦人の主張とすれば、男子の氣付かぬ傾聽すべき問題が非常に多からうと思はれる。

第二は社會風俗の問題である。今日社會に於ける風俗の頽廢は實に驚くべきものがある。是は一々例をあげなくともよからうが、吾々は見なれ聞きなれてゐる爲め、斯かる事を重大問題として取扱はぬ傾向がある。是は實に憂ふべき事と云はねばならぬ。風俗の頽廢は子供の教育から云つても重大な事柄の一つてあり、政治問題としても興味あることとてあるから、是を問題として其の改革を社會に促すのは、婦人に相應しい事の一つてあらう。

第三は禁酒の問題である。是は別に題を掲げて次號に詳論せんとするから此處には說かぬが、兎に角飲酒の害は、理論てはなく事實てある。然も其害を被むる第一の者は家庭の主婦たる婦人にある事は、一點疑ふ餘地のない明白な事實である。家庭經濟の破壞並に家庭風俗の紊亂はこゝに源を發してゐるのてあるから、其の被害者の立場にある婦人は是れを防止する事に努力せねばならぬ。是は將來政治問題となる充分の可能性がある故、此點に就て私は婦人の奮闘を希望せざるを得ない。

第四は衛生問題である。其國が文明てあるか、野蠻てあるかは國民の衛生思想の發達を見れば分ると云はれてゐるやうに、衛生は國民保健上重要な問題の一つてある。遺憾乍ら我國民の衛生思想は未だ幼稚の域を脫してゐない。公衛生の完備も個人の衛生思想が幼稚なら駄目てある。一面に於ては大いに國民の衛生思想の普及を圖ると共に、公の衛生的施設から云つても改良すべき事は數限りもなく多い。そこに婦人は眼をつける必要がある。公の衛生問題を家庭のそれと聯絡して整頓完備させねばならぬ。是は必ずしも婦人に限つた事てはないが、是らを政治問題の一つとして一般國民に訴へ、是が改良を圖るは最も婦人に相應しい仕事てあらう。

□平和教育の必要を高調

其他、粗枝大葉の政治問題も可なりあるであらうが、先づ婦人は此邊から着手するのが一番宜しいと思ふ。從來の如く男子のみによつて事を處理してゐた今の社會には、尚、幾多の缺點あるを脫れない。それを新しき婦人の目て見たなら改

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

良すべき點が澤山あるであらう。それを研究的に調査し、其の結果を發表し其の改革を促す如き事は何より必要である。

治警五條が改正されて門戶が開けたからと云つて、從來男子の取扱つてゐた問題と同一の事を問題となして、奮闘したのではどうも利益ではないと思ふ。

最後にもう一つ特に大切なものは平和問題である。歐洲戰爭以後、平和思想は非常な勢を以て勃興して來た。其の結果として國際聯盟が成立し國際平和の實現を圖つてゐるが、斯く世界の空氣は平和思想の爲めに大分動いて來てゐるのである。然し如何に國際聯盟が成立し國際平和實現の爲めに働いてゐるとしても、個人の心が平和を愛するやうにならねば餘り效果はない。

平和教育の必要は此の精神から起る。今日に於ては何事をなすにも、それが苟くも社會問題である限りは輿論を造る事が必要であると云ふ事を忘れてはならぬ。米國に於ける禁酒の成功も亦然りて憲法を改正して迄も此大問題を徹底的に解決し得たのは、婦人が參政權を得た結果であると云はれてゐる。婦人にして酒を飲む者は極めて尠い。飲む者は重に男子である。男子が飲む爲めに迷惑をうけるのは一般婦人であるから、婦人の酒を嫌ふ事は甚だしいものがある。故に我國に於ても婦人に選擧權を與へるなら、或ひは禁酒國を實現する事になるであらうと觀測される。それと同樣に戰爭を嫌ひ平和を愛する者は婦人であるから、婦人は此邊から働く必要があらう。第一は平和教育の高調、第二は國際平和の實現、是は將に婦人の着手すべき重要な問題の一つである。

□自重し研究し忍耐して

以上の諸問題は今後婦人の着手すべき政治問題社會問題として私はあげて置くが、婦人は是等をとらへて社會の輿論に愬へ、政治上に反響せしむる事が必要である。是が婦人のとるべき有利な道程であると私は信ずる。

云ふ迄もなく人としては男子も女子も同等である。然し事業としては分業の必要がある。女子には女子特有の問題があるからして、男子はそれを女子に一任して男子專務の問題に進んで行かねばならぬ。然も其の男子專務の問題に女子の踏み入るは不利である。男子も女子專務の問題に對しては、女子の努力に俟つの寬量な態度があつて欲しいと思ふ。

治警五條の改正は日本婦人が漸くにして得たる權利であるから、此の得たる權利を放棄する事なく、又蔑にする事なく、是を基礎として更に其の領分を擴めて行くと云ふ事は、賢明な婦人のとるべき態度である。又男子に望む處は、今迄公人としての資格を得なかつた婦人が、新たにその權利を得て始めて、試みたる演說會に、その言論の末をとらへて誹謗したり、活動の不充分を嘲弄したり、冷やかなる批評を加へて其の失敗の度を高めしむるは、紳士たる男子の愼みて避くべき事である。始めての試みに完全を望む事の不可能なるは男子のなす他の事業に於ても同樣であるから、婦人に對してそれを望み、望んだ結果が得られないからと云つて嘲弄するは同情者のとるべき態度ではない。

私は、新婦人連が是等の事に失望する事なく、飽く迄、自重し、研究し忍耐して眞の文化を此の地上に建設する爲めに努力せらるゝ事を望まざるを得ない。

（完）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

根本的改革の精神

廓清會長　島田三郎

□ネーザーランドの獨立

西曆千五百七十三年に記臆すべき出來事が歐州戰爭の間に企てられた。當時ネーザーランドはスペイン領であつたが、宗教自由の壓迫が慘酷にもスパニア暴君の手によつてネーザーランドの頭上に加へられた。遂に其處の人民はスペインに對して獨立の叛旗を飜したので戰爭となつた。

當時のスペインは米國の新大陸に廣大な殖民地を有し、世界第一の海軍國として飛ぶ鳥も落とす勢であつた處から、ネーザーランドの叛軍を一擊の下に粉碎しやうと强大なる軍艦をさし向けた。自由の熱情に燃えたる獨立軍は是れをライデンの市に防ぎ激戰となつた。如何に自由の熱情に燃ゆる獨立軍もスペインの强大な艦隊には打勝てず散々の敗北をした。然し獨立軍は海潮を防ぐ堤防を潰決して、其の地方を潮に浸し是によつて敵軍を斥け遂に大勝を博する事になつた。

ネーザーランド七州の戰爭は此の一擧によつて決した。獨立軍の歡喜は蓋し想像するに難くない。其の總兵官であつたウキリアムは深く喜び、一般市民の愛國の至情を壯として是れに酬へんが爲め、當時ネーザーランドの人民が如何なる希望を持つてゐるか、其の希望が何であれ、必ず實行する故、遠慮なく申出づべき事の布告を發した。

云ふ迄もなく當時のネーザーランドは、スペイン政府が非常な虐政を以て其處に住む人民を苦しめて來たのであるから、其の租稅の如きも從つて苛酷な誅求をうけてゐた。それ故に此の布告を發したウキリアムも、多分租稅の引下げでも要求して來る事と期待してゐたのであるが、案に相違、意外にも人民は天下の秀才を敎育する大學を建てゝ欲しいとの要求を齎して來た。總兵官ウキリアムも其の願意の高尙なる、希望の遠大なるに深く敬服し、早速其の希望を採用して遂に千五百七十五年に大學を設立した。今日では各國に立派な大學が數多くあるも、當時に於ては極めて稀れであつた處からネーザーランド人の建てた此のライデン大學は、眞に模範的の大學として非常な隆盛を來たし、新敎徒の學問の中心となつた。今日に於ても此のライデン大學は世界の一大學として斯界の權威となつてゐる。

□嗚呼此雄大なる氣性

斯うした事のあつて後、ネーザーランド北部七州はウキリアムが盟主となつて獨立の一大帝國を創立する事となり遂に今日の和蘭共和國の基礎を据ゑた。それは西曆千五百七十九

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

年の事て、愈々列國の公認をうけ堂々たる一帝國を內外に宣言し得たのは、約二年餘を經過した千五百八十一年の事てあつた。

私は此の歷史上の出來事を回想して無限の感慨なきを得ない。否、私のみならず、如何なる人てあつても當時、ネーザーランド君民の凛乎たる氣性と其の壯烈な態度とに感嘆の辭を發しないものはなからうと思ふ。ライデンの一戰によつて獨立の運命が決したとは云ふもの丶、連戰の患難を經ての上に、此の戰勝の時、尙、戰陣の間に苦闘しつ丶あつた。定めて經濟上に困難もあつたてあらう。故に差當つて減稅の要求もあるべき筈なるに、意外にも人民の智德を涵養し、天下の秀才を教育すべき大學の設立を提議したとは、其の希望の雄大なる、計畫の深遠なる、眞に感ぜざらんとするも得ないものがある。

此の雄大なる氣性あつてこそ、當時世界に跨がる强大國なりしスパニャの壓迫を脫し、光輝ある獨立國を建設する事が出來たのてあると思ふ。

□國民風俗の頽廢を如何

世界大戰が勃發するや我國は日英同盟の規約を重んじて此の大戰の渦中に投じたのてはあるが、其の結果は我國としては何等失ふ處なく、利益する事が非常に多かつた。眞の陸海軍を動かしたのは僅かに青島と膠州灣丈けて、此の獨逸の出張所を擊破したと云ふ位に過ぎぬ。それに加へて運送船の保護とか、聯合軍の商船保險とかに數隻の軍艦を派遣したと云ふ程度の參戰に過ぎなかつた。

然し、列國が國の運命を賭して戰つてゐる間に、世界の經濟界は著しく變化した。その影響をうけて我國に於ては輸出は增加し、爲めに一時黃金の雨が降ると云ふ景氣て成金は四方に簇出した。其の結果通貨は膨張し物價は騰貴したので國內をあげて驕奢の風起り、別莊並に妾宅は增加し、田舍の農夫すら金時計を下げて步くと云ふ傾向になつた。

然るに間もなく不景氣と云ふ反動の風が吹いて來た。其の爲め現在に於ける國民の周章狼狽は如何がてあるか、丸て何のなす處を知らず進退に窮してゐると云ふ狀態である。是は何の結果によるか、吾々國民は深く反省して見なければならぬ。是は我國民に何等遠大なる抱負なく、眼前の利害と快樂に汲々たる事を示す何よりの證明である。是を自覺せずして生溫き改革を叫び、節約の宣傳ビラを撒いてお茶を濁してゐる位の程度ては到底駄目てある。第二の國民を教育すべき學校は各方面に不足を告げてゐる。教員は給與の薄きを嘆ずると雖も、是に對して何等の策も施されて居らぬ。日々の新聞紙の三面に現はる丶社會記事は驚くべき國民風俗の頹廢と意氣銷沈、道義地を拂つて空しい事を傳へてゐる。

是を知つて眞の憂國の士の心腸は痛まざるを得ぬ。今は國民全體が斷然として過去の過ちを悔改め、眞面目に立ち歸つて根本的改革の精神を揮ふべきの時てある。私は今の我國民の間に此改革的精神の盛んに勃興せん事を祈つてやまざるものてある。(完)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

再産兒制限論

廓清會副會長　安部磯雄

『産兒制限論』の反響

四月に出版した私の『産兒制限論』は、今日迄に約三千部程賣つてゐるが、それを讀んだ多數の人々から約三百通程の手紙を貰つた。

此書物の中に『制限の方法は私自身からは敎へられぬ。何故かと云へば自分は素人であるから、斯うした事は素人の自分よりも專門家である醫者に一任するのがいゝと思ふ。若し必要のある者には責任ある醫者を紹介してもいゝ』と云ふ意味の事を附加へて置いたのであるが、どう間違つたものか新聞などでも、私が實行方法を敎へるとか云つた事が傳へられたので、『さう云ふ事であつたら、是非敎へて欲しい』と云ふ手紙も可なりに貰つた。

そしてそれらの手紙を一々忠實に讀んだのであるが、其中に一貫した共通の心理的事實のある事を自分は發見した。それは何んであるかと云へば、手紙は寄越し乍らも誰も彼も質問する事を羞ぢてゐる。『甚だ申しにくい事ではあるが』とか『羞かしい事ではあるが』とか云ふ言葉を附加へてゐる。『醫者に紹介してくれ』と云ふ人に至つては、その羞かしいと云ふ程度が更に極端であつた。中には『自分が手紙を出した事を、先生以外の誰にも話さないで下さい』と斷つてあるのも可なり多かつた。

此點から考へると、日本人の大多數は、『産兒制限』を惡い事だと思はなかつたなれば何も羞づる事はない筈である。惡い事と思へばこそ、斯く羞ぢてゐるのだらうと云ふ解釋を此處に於てか下さゞるを得ない。殊に今年の四月に初版を出してから、尠くも三千部は賣れてゐるから、一冊三人宛讀むと假定して、九千人から一萬人の人に讀まれてゐるに相違ない。一萬人の人に讀まれ乍ら三百通の手紙があつた丈けでは、餘りに尠いと云へば尠いとも云へる。

何よりも性敎育の必要

日本人は何故に『産兒制限』などゝ云ふ眞劍な問題に對して、斯くも『惡い事』『羞かしい事』として考へてゐるかと云へば、是は永い間の敎育…然も誤られたる敎育の結果であるが、外國では『性敎育』と云ふ事が頻りに高調せられてゐるが、日本では昔から今日に至る迄、さうした事が全然なかつた。單に性のみならず、男女問題すら口に出して云ふ事を羞づる傾向がある。それ故夫婦間の問題に就ても全然秘密主義で、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

臭い物には蓋をすると云ふ諺、其儘を實行してゐる。即ち夫婦間の關係なるものは、いやな事、羞かしい事として、成るべく人に知らしめないやうにする。故に性に關する事を人の前で話すやうな場合にも、話す當人も聞く人も『何かしらいやな事』と云ふ羞恥感から離れる事が出來ない。

然し斯う云ふ問題は如何に知らせないやうに努力しても、早晩必ず總ての人の知る事であるから、適當に指導する事が必要である。西洋では靑年男女には必ず性教育を施してゐるが、我國でも中等以上の學校を初め、家庭に於ても適當な書物などを作つて、是を讀ましめるやうにする事が目下の處、何よりの急務であると信ずる。若し性の問題は罪惡だなどと云ふ謬見に囚はれて、性教育を怠つたならば、是らに對して無知な若い男女が、不知不識の間にとんだ間違ひをしないとも限らぬから、今後性教育は大いに高調すべきものであると思ふ。

□誤解されてる産兒制限

日本人の大多數は、産兒制限に對しても是と殆んど同樣の謬見を懷いてゐる。なぜかと云へば我國で從來行はれてゐた産兒制限なるものが、人道上より觀るに罪惡である處から、吾々の唱ふる産兒制限もその例に漏れない慘虐な方法で實行すると誤解するからであらう。

最も我國で行はれて來た産兒制限は、墮胎、嬰兒壓殺等肌に粟を生ぜしめるものがある。斯うした方法は維新前には盛んに行はれてゐたものであるから、産兒制限と云へば直ちにさうした慘虐な方法を思ひ浮べて罪惡だと云ふ感じを懷くのであらう。吾々の唱ふる産兒制限が斯うした方法でやるのであるとすれば、云ふ迄もなく人道上から觀ても許容し難い罪惡であるに相違ない。私の云ふ産兒制限は今日文明諸國で行はれてゐるもので、墮胎や嬰兒壓殺の如く非文明非人道的のものではない。即ち妊娠をしないやうにする遣方…換言すれば避妊を實行するのである。私も既に胎内に形づくられたものや、生れて來た嬰兒を慘虐な方法で葬つて了ふ事の罪惡である事を認める。然し避妊をする事が罪惡であるとは考へられない。さう斷言する事は出來ないと思ふ。

是を深く考へないから産兒制限と云へば直ぐに惡いやうに思ふのである。故に私はさうした偏見を社會一般がすてる事を願つてゐる。それが爲めには大いに論じてさうした謬見を懷いてゐる人達の蒙を啓いてやらねばならぬ。さうした偏見を持つてゐる處から何時も誤解が生じて來るのであるから、さうする事が目下の急務と云はねばならぬ。

□貧乏とは即ち社會病

然らば私が産兒制限の必要を痛切に感ずるやうになつた理由は何であるかと云へば、それは決して或人達の考へてゐるやうな六ケしい事からではない。勿論私とて、年々六七十萬も增加してゆく日本國内の人口を調節する意味に於て、産兒制限の必要を感じない譯でもない。亦産兒制限を實行すれば健全な國民が生れるからと云ふ理由で、是を主張せぬ譯でもない。然し根本の動機はそこにはない。痛切に感じてゐる

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

事は寧ろ目下の事であり、且國家政策など丶云ふ廣いばつとした問題からではなく、一個人の利害幸福に關する事からであつた。

　即ち子を生む爲めに生んだ兩親も苦しめば、生れて來た子も苦しむと云ふ例が日本のやうな貧乏な國には非常に多い。いくら貧乏でも二人や三人の子供なら、結構滿足に食はして相當な敎育も授ける事が出來るであらう。然し五人六人十人とあつたのでは、敎育どころではない。滿足に食はせる事すら六ケしくなつて來る。從つて榮養も充分攝る事が出來ないから子供の體格が惡くなる。從つて頭腦の活動が鈍くなるので學校の成績が惡くなる。發育不完全並に衞生も充分行屆かぬと云ふ理由て、子供の病氣が多くなる。從つてその死亡率が増加する。是が我國民大多數の現狀であるまいかと思ふ。

　斯うした悲慘な有樣を默つて見て居られるか。尠くとも人類に對して徹底した愛情を持つてゐる人であれば、何とかせねばならぬと云ふ人道的の精神が湧いて來る筈であると思ふ、故に斯うした問題は道樂に唱ふべき事ではない。徒らに宣傳すべき事でもない。尠くとも社會問題に對して宗敎的熱心を持つてゐる人が、進んで唱へなければならぬ重要な問題であると思ふ。

□夫婦別居の悲劇を如何

　社會問題と云つても其中には種々の問題があるけれども、私の考へては、此社會から貧乏を取除く事が最も重要な問題であると信ずる。貧乏は病氣である。社會病である。此社會病を治癒する事、取除く事は吾々社會に生存してゐるお互の義務であらうと思ふ。然らば此貧乏と云ふ社會病は何によつて取除く事が出來るかと云へば、それは人々の信ずる處によつては澤山の解決の方法があるであらう。然し目前の大問題は誰が何と云つても、產兒制限を斷行する事である是を行ひさへすれば一家が救はれるのである。

　何故かと云へば、貧乏の最大原因は澤山の子を生む事に因するからである。私は產兒制限に就て多數の人達から手紙を戴いて、今更乍ら多產の爲めに苦しんでゐる人の多いのを發見した。二人や三人の中にはよいけれども、七人八人十人と生れて來たのでは、中產階級以上の者はよいだらうが、無產階級乃至俸給生活者階級の者では到底やりきれるものではない。さうした苦痛を訴へて來た手紙は數限りもなくあつたが、其中でも特に私の心を動かしたのは、極めて收入の尠い俸給生活者で八人も子供のある人から貰つた手紙であつた。其人の云ふ處を聞けば、八人の子供のどれを見ても體格が非常に劣つてゐる。兩親共至つて健全であるのに何故斯うであるかと云へば、貧乏の爲めに子供が要求する程食はせる事が出來ない。詰り榮養不充分の處からであらうと云ふにあつた。若し是以上子供が生れたのでは二進も三進も行かぬ。と云つて一緒に住んで居れば又生れるに相違ない。そこで仕方なく夫婦二人て子供を四人宛分擔して別居したが、產兒制限の方法があれば助けると思つて敎へて貰へたいと云ふのであつた。

　實に悲慘な話ではないか。そしてたゞ此人許りでなく、斯うした理由て困つてゐる者は數限りもなくあるだらうと思ふ

□要求者は悉く眞劍

どの手紙を見ても斯うした苦痛を訴へて來てゐる。私は是らの手紙を讀み乍ら深く心を動かしたのであつた。

私は若い時代に、直接基督教の傳道に從事した事があつたが、基督教に對する世人の要求はそれ程强いと云ふ事が出來ない。自分から聞きに來る事などは滅多にない。寧ろ此方から進んで行つて道を說かなければならなかつたのであるが、產兒制限に對する要求はそんな生溫いものではない。『救ふと思つて敎へて下さい』と言ふ言葉が手紙の何處かに必ず附いてゐる。其要求が非常に痛切である。

斯う云つたからと云つて決して私は、基督教の方が產兒制限よりも劣つてゐると主張するのではない。基督敎は精神的の事であり、產兒制限は物質的の事である　全然別問題であるから比較とか批評とかの範圍には入つて來ない。精神と物質を比較してどちらが優つて居るかと云ふやうな愚を演ずる譯ではないが、然し人間は精神的の問題に對しては割合に冷淡であり、物質的現實的の問題には割合に熱心なものであるから、斯うした事になるだらうと思ふ。

兎に角私は是らの三百通からの手紙を讀んで、多産の爲めにどれ丈け苦しんでゐる多くの人のあるかと云ふ事を知つた。かう云ふ人は自分から進んで產兒制限を實行するがよいと思ふ。然るに依然として可笑しな考へに支配されて躊躇してゐるのは愚な話である。廓淸會員中でも自覺してゐると者必要を感じてゐる者があれば　私宛に申込んで欲しいと思ふ。方法を知りたい者には責任ある醫者を紹介しても宜しい。私自身は知つてゐるけれども素人が說くのはどうも面白くない。又、法律も許してゐないのであるから、矢張りどうしても責任ある醫者の指導に俟つのが、一番よいやうに思はれる。

□要するに議論は不必要

然し斯う云へばとて決して好まぬ人に勸めるのではない。必要のある人丈けが眞面目に研究すべき事である。そして私自身とても此問題に對して反對論者の多い事も知つてゐる。然し私は反對するのも議論するのも共に間違つてゐると思ふ。產兒制限など丶云ふ痛切な問題、せつ端詰つた問題は反對論や贊成論で混ぜつ返すやうな餘裕のある問題ではない。やりたくない人はやらないがよいし、やる必要に迫られてゐる人は進んでやつたがよい。如何に反對論者と雖も、前に述べたやうな子供が多い爲に暮らす事ができないで夫婦別れでも仕樣と云ふ氣の毒な人に、產兒制限は罪惡だと云つて攻擊はしないだらうと思ふ。そして社會も又、さうした實行に迫られてゐる人がいざ實行しやうと云ふ際に、それは不可事だ、惡いことだと云つてせめ立てる程、それ程冷酷ではあるまいと思ふ。

要するに議論するのは詰らない事である。私は、贊成論者も反對論者も愼重に眞面目に考へて欲しいと云ふ事を要求したい。（完）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

我國に於ける婦人運動の倫理的考察（三）

文學博士　藤井健治郎

十

次に婦人運動の第二の目的即ち女子を家庭の奥から社會の表面へ解放することに就いて考へて見やう。

女子を家庭から社會へ解放するとは如何なる趣意であるかなれば女子が家庭に於いても、社會に於いても、國家に於いても男子に對して、一歩退け目を有つて居つて、何うしても對等の位置に立てないのは、女子が本來的にあらゆる點に於いて男子より劣つてゐるがためでなく所詮は女子が經濟的に男子に依賴してゐるからである。故に女子を男子の壓迫から脫却せしめ、對等の位置に高めやうとするのには、女子をして必ず先づ經濟的に獨立せしめなければならぬ。經濟的に獨立することが出來てゐさへすれば、必ずその位置を高めることが出來る。それには女子をも自由に社會の表面に立たしめ彼等の欲する所の職業を執らしめ、彼等自身をして彼等の生計をなし得る工夫をなさしめなければならぬ。即ち女子をして單に家庭內に於ける消費經濟者たらしめず、社會の表面に於ける生產經濟者たらしめなければならぬ。かうした思想が根柢となり、而してそれが爲には女子の教育を受ける機會も男子と均等ならしめるやうにせねばならず、又政治に參與する權利も男子と平等であらねばならぬといふ思想なども附加して此に家庭から社會への解放運動が起つたのである。

十一

此運動に對する正反對なる思想は、女子は本來的に家庭の奥に居るべきものであつて、男と共に社會の表面に立つべきものでないといふ思想である。彼等の考へる處によると、女子の天職は其妻となり母となるにある。是は子供を生む、又それを哺育するのに適してゐる所の乳を有つてゐるといふ所から生理的若しくは生物學的に自然に妻母となり、以て家庭王國に君臨すべきやうに運命づけられてゐる。それを無理やり社會の表面に引き出すことは女子の天職を無視する所の贔屓の引き倒しであつてそは甚だ酷である。又たとひ社會の表面に引き出して來て、欲する所に委せて一切の仕事に當らしめて、男子と競爭をさせるのは、そは女子をしてむしろ不利の位置に立たしめるものである。何となれば女子は到底男子の敵でないから。それよりも女子は妻となり、母となつて家庭の奥に居つて、無敵の獨特な仕事をする方が如何に幸福であるか知れぬといふのである。

さて以上の解放可否の兩說について、其いづれが眞理なり

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

やを決定する處の關鍵は、男女の才能、力量は果して同等なものなりや否やといふ點に存してゐると考へられてゐる。しかし此問題に就いての研究は、今日迄の處可否殆ど五分々々であつて、何れを是とし、いづれを非とすることも出來ないそこで私は只今の處是は唯『時』が解決してくれる問題であると思つてゐる。以前は夫婦共稼をするものは殆ど農業者、職人階級に限られてゐたもので、所謂坐業を執る所の夫の妻は、讀んで字のやうに『奥』さんであつて唯消費經濟者として生活してゐたものである。然るに十九世紀の末になるに從つて種々の事情からして年一年と生活が逼迫するやうになつたが爲に、今度は『奥』さんが『奥』さんで通つてゐる譯にいかなくなり、内職を始めたり、外業を執つたりするやうになつて、所謂共稼の風は此邊にまでも及んだのである。しかしそれでも猶追つ付かなくなつては、男女共に始めから結婚を避けて其累を受けぬやうに心掛くるに至り、又さうなると獨身でも十分幸福に而も氣樂に生活していけるやうに、シャムブル・ガルニーも、飯屋も、呉服屋も、洗濯屋も、其他生活に必要な一切の店が段々具つて來る。さうした事情から西洋邊には未婚の老男女が激增するやうになつたのである。扨てから增えた未婚の男は無論、女でもやはり自分自らで獨立の生計を圖らねばならぬ。そこで彼等は學校の教師になつたり、百貨店の賣子になつたり、銀行、會社の事務員になつたり、看護婦產婆になつたり、タイピストになつたり、電話交換手になつたりした。つまり彼等が自分て是れならと思ふ職業へどん／＼這入り込んだ譯である。

而して彼等は今日迄の處、それ等の職業に於いて、女子獨特の立場から、若しくは男子に劣つてゐるといふ譯でもなし、又競爭に負けてしまつたといふ譯でもなく、仲々立派に彼等の地盤を占得しつゝあるのは事實である。殊に注意すべき事柄は大戰中に於ける參戰國の女子の作業である。あの世界戰爭の際には參戰國のどの國でも平素男子のする仕事と定まつてゐた市内電車の車掌、運轉手から郵便、電信の集配等までをも女子がやるやうになつたが見事にそれをやりおうせたのである。それて事情と場合とによつては、隨分男子とも競爭の出來ない事でもないといふ自信を與へたやうである。かやうに種々の事情から、女子が自ら獨立の生計を圖らねばならぬやうに餘儀なくされて問題は自然と解決していくのである。我邦の生活事情は幾分外國とは異ひ、今日では物價の高いことが世界一だといふことになつてゐるが、それでもどうやら生活してゆけるやうな風になつてゐるとはいへ、しかし先年來女子の職業の種類が段々多くなり、又其一種類の職業に從事してゐる女子の數も段々多くなりつゝあるは事實である。つまり我邦も世界の御多分に漏れず、女子獨立者が多くなりつゝあるのである。是は理窟でない事實である。女子は『奥』さんとして家庭の奥に引込んでゐるべきものであると理窟をいつた處が『奥』さんにして而して生活の保證を與へるでなければそれてどうすることも出來ぬ事實である。さうした道理であるから、私は女子が男子と同樣に社會の表面に立つて働くことの可否の問題は、唯『時』が解決し得る問題であるといふ所以てある。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

十二

そこで又女子の教育問題に移らざるを得ないが、一方に於いては右樣の事情があつて、女子も男子と同樣に社會上の表面に立たねばならぬ道理があるから、その準備として教育は女子に對しても男子と均等の機會を與へておかねばならぬ。女子の天職は妻となり母となるにありといふ一片の理窟から國家は其方の教育の設備ばかりをして、社會に立たうと思ふ女子の爲に何等の設備をしないのは、片手落の仕打である。教育の機會は均等であらねばならぬ。

更に一歩を進めて論ずるならば、私は妻たり母たるものを養成するにしても、我邦の現在の女子教育制度には首肯することが出來ぬのである。第一現在の高等女學校が妻母の專門教育であるかのやうに、當局並に女子教育者の多數によつて謳はれてゐるのであるが、從つてそれが爲に家事科に屬する技藝科と他の學科とて、男子中學よりもより多くの時間をかけてゐるのであるが、而して其結果虻も捕らず蜂も捕らず學科の上では高等小學校に稍毛の生えたやうなもので、到底男子中學などに比ぶべくもない。又技藝科なども、やつと型だけ呑み込めたといふだけて、とても一家の主婦として差支ないだけの技術を習得し得たものでもなく、出來上つたものは、眞に帶には短く襷には長い中ぶらりんのものである。良妻となり賢母となることの難しい事は、タイピストになつたり、女記者になつたりする比ではない。餘程堅牢な土臺の上にがつしりと建てねばならぬ。高等女學校を妻母の專門教育所とすると、六年の義務教育だけの土臺にその專門教育を施さねばならぬといふことになる。それぢや碌な妻や、母の出やう筈はない。

加之職業教育は動もすると一種の臭味を帶びて來るものである。『師範』に學ぶものには、何處となく『師範生』臭い處があり、『商業』に遊んでるものには、何處となく『商賣人の卵』らしい處がある。其臭も味も、單に臭い味だけて、實質の上に何等差支なしといへば、それで洵に結構であるが、しかし實際さうでない其臭や味やは實質が、偏狹で固陋て、潤逸な溌溂たる精神を缺いてゐる所から來る所の臭味て、大に以て差支へのある臭味である。六年の義務教育を卒へたばかりの少女に、校長以下教員全體が音頭取になつて、良妻賢母のお題目を唱へさせて、一年から二年、二年から三年と、次第々々に型へ嵌めていかう、そこに力を向けられた時、果してそこから眞の良妻賢母が飛出し得るであらうか。もつと廣い而して高い處に眼をつけて教育しなくてはならぬ。それ故に我邦の女子教育は女子の社會に立つ爲にもつと高い深いものにしなければならぬと確信してゐる。

然るに世間には女子に高等教育を施すといふと、自然結婚生活を嫌ふやうになる、而してそれは女子をして其天分にそむかしめることになり、又國民の興亡盛衰に關はることになるのであるから宜しくないといふ說をなすものもあるが、私はさうは思はない。其說の妄なることは私は從來口に筆に屢々之を公にしたことがあるから、此にはそれを省いておく。

私は如上の考へからして今日の自覺した、婦人方の當さに爲すべき活動は、參政權問題などよりも又集會結社法の改正の問題などよりも、刑法改正の問題などよりも、先づ此教育の機會均等運動であらればならぬ筈であると思ふ、教育さへ普及し、進步すれば如上の問題も自然に解決されてくるものである。現に以前の奴隷的狀態からどうやら今日までの狀態に進んで來たのも、前に述べたやうに不完全ながら明治大正の女子教育が普及し進步して來た爲であるのを考へると、じつとして居られない譯でないか。

如上の外、前にもいつたやうに猶產兒制限問題、母性保護問題についても論じてみたいが、あまり長くなるから、一ト先づ筆を擱くことにしやう。(完)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

火星人の生活を想像して

廓清會理事　内ヶ崎作三郎

天地の神秘に憧るゝ崇高なる詩人的精神と廓清會の使命

諸君は昨今晴夜の折、目を擧ぐれば燦爛たる火星の輝き渡るを認め得るであらう。吾人が此火星其の他の多くの星を眺めて、心行くばかりに宇宙人生に思ひを廻らし、尚ほ之等の星の世界の有様を考察し想像することは、吾人人類の特權である。その男たるを問はず女たるを問はず、天地の神秘に憧れ自然の崇高に打たるゝ所以のものは、實に吾々の靈性が靈妙であり尊貴であるからである。そして人生の高さと清さと深さとを究むることが、即ち人間たるものゝ特權であると思ふ。吾々は吾々が此詩人的空想を廻らす所に尊いものゝあることを忘れてはならぬ。天文學者の説に依れば宇宙には二十二億の星がある。そして流星以外のものは皆一種の太陽であると云ふことである。又此大宇宙は之を哲學的科學的に見るも實に偉いものである。又火星は平常地球と五千萬里の距離の處にあるが、本年六月十九日には一千七百四十萬里の距離となり、最も近い所にある。然し此最も近い距離ですらも、若し之に達せんと欲するならば、一時間に三十哩を驅ける所の急行列車に依るも、實に百六十二年掛らねばならぬのである。

そして此火星は六月十九日以後漸次遠くなるのである。若し吾人が其の専門の學識や職業のみに拘泥して、それ以外に同等の趣味を有せぬならば、實に憐れむべきものであつて、寧ろ人生を辭職する方がましてあると思ふ。若し吾々が天界に興味を持たぬならば、人生のことと共に談ずるに足らずてある。そして今回此火星を見る機會を失ふならば、吾々の生存中に或は再び見ることが出來ぬと思ふのである。又天文學上より斷案を下すならば、太陽に近い水星には人間が住まぬ。又金星は或は住み得るであらうが能く見えぬので判明せぬ。又火星は多分人が住んで居るてあらうが木星は混沌としてゐて人の住み得ると云ふが如き問題てない。火曜星、天王星の如きも人類が住むに至ることは、遠き將來のことてある。支那では彼の慧星であるとか其の他平素見慣れぬ星が天空に顯はるゝときには、戰爭又は國家の動亂があると申すのであるが、目下張作霖、呉佩孚、陳烱明、孫文などが、各所に割據して戰端を開いて居る矢先きに、火星が顯れたのてあるから支那の一般國民は必ずや今回の戰爭は火星の出現の爲めてあると言ひ觸らして居るてあらうと思ふのである。

西暦千八百七十七年伊太利のスキアパレリーと申す天文學者は火星に運河の如きものがあると主張し始めたのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

又學者が專門以外に趣味を有する二三の例を申すならば、米國の天文學者パーシバル・ローイルはボストンの名流で、ハーバート大學總長の兄弟であるが、日本に興味を有し、實地之を研究して「極東の日本」と題し、一書を著した。又米國の學者ドクトル・フアーネスはユニテリアンであるが、熱心に日本人の生活狀態を研究した。又日本の社會事業を研究したのであるが、基督教の社會事業でなく、佛教の社會事業を見たのである。その社會事業はバタ臭いものでなく、米の飯を食ふ東亞的社會事業である。又私も昨年支那滿洲地方巡遊の節、その社會事業を視察したのであるが、支那天津の長老育英堂は私が日本人として始めて行つて見たのであると云ふことである。此所には孤兒一人に付附添の婆やが一人と云ふ様な譯であつて、實に設備の完全なる理想的の孤兒院である。斯くの如き理想的な孤兒院は歐米の何れを尋ねても絕對にないことを斷言する。又奉天でも總合的社會事業があり、尙ほ娼妓の如き者を救濟する濟療所があつて救濟の實を擧げてゐる。そしてその救濟したる婦人を教育したる上確實なる人に緣付けたいと努力してゐるのである。その方法として寫眞を其の門外に揭げて置き、結婚の申込があると、院長は警察に依賴して其の申込者の身分素性等を詳細内偵して貰ひ、其の結果確實い者であると認むれば、互に見合ひをなさしめ、意氣相投合すれば結婚せしむるのである。

又捨兒をするのに、その捨てやうと思ふ子供を捨兒收容所の門前迄連れ來つて、其の門前に捨てゝ門のベルを鳴らすと同時に密かに立ち去るのである。さうすると收容所の中から掛員が出て來て、その捨兒を拾ひ上ぐるのである。捨てる方でも其の子女を捨てゝ默然として去り、收容所の掛員もだんまりで直ぐに貰ひ受くると云ふ様な譯である。實に奥床しく感心すべきであつて、日本の官僚的施設とは全く其の趣を異にして居る。支那は實に人情を嚙みわけて居る。爰に東洋文明の立派なる特色がある。又米國の天文學者ミス・フアーレスは先年日本に來て文樂座へ行き、日本在來の音樂や演藝を見聞して非常なる感興を起し、其の序に賀川豊彦氏の社會事業を見て歸國したのであるが、歸國の上は天文學者として熱心にその研究を續けて居る。彼の女は實に天地人生に對し無盡藏の興味を有してゐる。凡有眞理と善美を研究し咀嚼する興味は實に高潔であり、靈妙であり豐富であり、津々として盡くる所を知らぬのである。

火星に對する研究及想像と廓清會の事業

ローイルは日本のことを研究したる後、歸國して海拔二千何百呎と云ふアンゾナ州の高地より火星を見て、專ら研究に努力してゐる。此研究には多くの時間を浪費せねばならぬ。例へば百時間の内九十五時間は無駄であり、殘りの五時間だけ明かに見えて充分に研究し得る時間であると言ふ様な譯である。斯くの如く却々努力と忍耐を要するのである。そして之が研究を遂ぐるには精巧なる望遠鏡に負ふ所大なるは申す迄もない。日本にも軍艦や師團がある以上は、國家として精巧無比なる望遠鏡を備付くるだけの心掛けがあらねばならぬ
ローイルは火星の表面に百四十何本の運河があるが、何れも

人工的の運河であつて、砂漠か其附近に多くある。此火星には人間が居るであらうが地球よりも暑いことは疑ふべからざる事實である。と申して居る。又地球は六十尺を掘る毎に攝氏一度を增すのである。そして一度を增す毎に水の分量の幾分を失ひつゝある。此失ひつゝある水分は空間に浮遊し散在して居る。それ故に結局サワラやゴビの沙漠の如きものとなる譯である。又埃及の砂漠は追々熱が退却しつゝある。此地球か漸次冷却して、人類の棲息し能はぬ悲境に陷るであらう併しそれは遠い將來のことであるから、現代の人々は決して心配するに及ばぬのである。

昨年の六月中は十六日間雨降りであつたが、本年の六月は此模樣で參るならば七八日さへ降らぬであらう。それが爲めに關西地方には旱魃となり、大分弱つて居る村落が多くあると云ふことである。水は誠に大切のものであるが、火星には水がないと云ふ說が頗る有力である。又月には勿論お姬樣は居らぬので、丸で岩だらけである。然し精神的詩歌的ローマンティックに考ふることは、固より自由である結構のことである。又火星には水がないのに、如何なる人間が住つて居るかは考究を要すべき問題である。マルコニーが火星から電波がやつて來ると申し、且つ火星の人類は非常に進步して居るであらうと推定してゐる。又英國の學者ウエールスは「世界の小說」を著はし、其の中に「火星より襲ふて來たが、火星には水なき爲めに生活の困難を來してゐるに相違ないから、火星に居る人が此水その他の自然と戰ひつゝある有樣は充分に思はざるを得ぬ云々」と申し居る。抑廓清會の事業は凡有學理を研究し、凡有趣味に透徹し以て生活を合理的ならしめ、能率を增進し且つ頭をよくし、人を利し己れを利することにある。そして廢娼禁酒も其の原理より來るのである。

婦人の如きも皆立流な女性紫式部、ナイチンゲール、神功皇后、西施の如き人々にならねばならぬのに、理想通りに參らぬのは、社會の組織が不完全なる爲めである。日本には眞正なる男女交際がない。それ故に多くの男子は藝妓その他の醜業婦と交際するのである一國の政治を司る大臣連迄が待合に集つて政治の相談をする。政治の祕密は吾々よりも藝妓の方が知つてゐるだらうと云つたやうな譯で花柳界の力は仲々侮り難い。處が今度の加藤內閣は待合政治は斷じてやらないと云ふので花柳界では少しく失望落膽してゐる、其結果自分等の近附かぬ政府なら早速排斥ねばならぬと氣色ばんでゐるので野黨の反對よりは返つて花柳界の反對て內閣の瓦解を見るかも知れぬと云つたやうな滑稽も持上つて來る。

最新の天文學によれば宇宙の中心圈內に地球がある。然るに宗教家は此地球を下界であると申すのである。又基督教では昇天すると云ふが一體此美はしい世界をすてゝ何處へ行かうとするのであるか、月の世界へ行つて此地球を見るなれば吾々が月を見るよりも約十倍も大きく美しく見えるさうである、其處に人あつて此美しいものを見たとすれば誰がそれを汚れたものと考へたり、下界と呼んだりするか必ずや彼等は天球と呼ぶに違ひない。此地球は穢れた世界でない。人間世界は立派である。實に理想郷である。若しさうでないとすれば吾々の力で理想郷に改造して行かればならぬ。此世界を離れて何處に吾々の築くべき理想の世界があるか、斷じてあるものでないから此世界をよくする爲めに吾々は働かればならぬ。（讀賣文實記者にあり）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

諺に現はれたる女

廓清會理事　高島米峰

◎諺の重要視さるゝ理由

吾々人間が幼少の頃から聞きなれてゐる處から、頭の中にしみ込んで、すてやうとしも容易にすてる事の出來ないでゐるものは、諺乃至金言であらうと思はれる。

先づ諺乃至金言の特長は何であるかと云へば、誰でも覺えられるやうな短い言葉である事、然もその短い言葉の中に含蓄の多い事であらう。それ故精神修養に就て或有益な暗示を與へると共に實生活の指導に與つて、利益のあると云ふ點に於て、何人と雖も否定せぬ處であらうと思ふ。

古來人口に云ひふるされた諺に『タイム、イズ、マネー』とか『一日再び朝來らず』『朝起は三文の德』とか云ふのがある。斯うした諺は、白痴か狂人でない限りは誰でも知つてゐる事で、說明を待たずして、其短い言葉の中に含まれてゐる意味を理解するであらう。斯うした諺は、短いと云ふ點、調子がよい、事理明白だと云ふ點に於て、深く吾々の頭にしみ込んで、終生ぬけないでゐるものが多い。そして是等の諺は疑ひもなく、吾々人間の修養の規範となり、實生活の指導となり、思想、と云つては少し大袈裟かも知れぬが、詰り思想の根底の一部となつて、何かにつけて吾々の生活を益し、且豊富にしてくれる。

然し、是は利益の方面丈けを述べたのであるが、惡い方面を觀察すれば、是も又非常に多い事になる。たとへば、その諺が創造された時代には、それが極めて適切なものであつたにしても、時代は決して一つ處に停滯してゐない。絕えず進んで行く。從つて諺丈けが相變らず舊い儘の衣を着けて、新時代の新思想と共に存在してゐると云ふ事になる。然も斯うした時代錯誤の金言や、思想上の錯誤に陷つてゐる諺が今の時代にも、非常に多いのである。然もそれらの諺は、理知的思想的には否定されても、長年の間の墮勢の力で仲々侮り難い、ぬき難い地盤を吾々人間の世界に持つてゐる。だから平常は非常に新しい、物の解つた人でも、心の底に根を張つてある諺が、チョイ〱飛出して來るので、或場合に丸で舊臭い、間違つた事を云ひ出したりするのである。

最早、誰が考へても陳腐で、到底、新しい時代に生きてる人間を支配する事の出來ないものゝ例としてあげらるべきものは、日本の諺に現はれた婦人觀であらうと思ふ。私は女に就て吾々祖先の云ひ舊して來た諺を、四十五六程こゝに拾ひ出して見たのであるが、それらを一々仔細に吟味して見ると、何れも婦人の短所弱點を罵倒し嘲弄したもの許りで、是を讃

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

美し稱讚したものは藥にしたくも見出されぬ位で、否、一つとしてないのである。何れも婦人のアラ探しならぬはないと云ふ情ない有樣である。

◎すべての諺が女を罵倒

第一には、女を人格者として認めないと云ふ事で、『女は賣物』『女は化け物』『女は魔物』『女はてはれ者』など〻云ふ諺がよく是を證明してゐる。甚だしいのになると『女は男のなぐさみ者』など〻云ふ諺があるが、是らは稍極端の方であるが、兎に角女を一個の人格者として認めてゐなかつたのは確かである。女は賣物など云ふ諺は全然商品扱ひて、是程女を侮辱してゐる話はなからうと考へる。

是らは何處から云つても無理非道な事で、現代に生きてゐる男と云はず、女と云はず誰だつて此諺の通りに信ずる者は誰一人と雖もないであらう。詰り現代思想との距離は遙かに遠いのであるが、然し理論として、思想としては否定するにしても、實際の場合に於てはどうであるか、事實に於てはどうであるかと云へば、斯うした考へを持つてゐる者、否、思想としては持つてゐないにしても、事實、斯う云つた態度を以て女に接してゐる者は可なり多いやうに思はれる。若い、新しい時代に生きてゐる諸君はさうでないにせよ。諸君の父、叔父、老父、の意見を敲いて見るならば、必ずや斯う云つた諺に無條件で贊成するのではなからうか。

第二には、女を極めて消極的受動的に見てゐる點にある。たとへば『女は受け身』と云ふ諺がよくそれを現はしてゐるやうに思はれる。然し、女は果してうけ身であるや否や、過去の女は或ひはさうであつたかも知れないが、現在の女が消極的に且うけ身の態度にありや否やは頗る疑問と云はねばならぬ。否、現在の女は大いに能動的且積極的であるやうに思はれる。然し『女はうけ身』と云つたやうな諺が、今も尚男の頭のどこかに殘つてゐると云ふ事は否定する事の出來ない事實であらう。

第三には、女を極めて不潔不淨なものと思つてゐたと云ふ事である。『女が釣竿を跨げば魚が釣れぬ』『女が天秤棒を跨げば折れる』『女が砥石を跨げば破れる』『女が牛の綱を跨げば罰が當る』と云つた諺があるのによつてもよく理解される。

◎女は成佛されず

第四には、女を本質的に罪人と見る思想であるが、是は佛敎思想の感化が與つて力あつたかのやうに思はれる。『女は一生涯たつ三界に家なし』『女は百歳になるも家持たず』『女は一束藁の主にもなれず』、と云つたやうな諺によつて明らかである。即ち此人生には欲界色界無色界の三界があるが、女は本質的に罪人であるから、到底成佛する事が出來ない。女には五障三障の障害があると云ふ事を佛書の中に說いてゐるが、是は儒敎の七去三從の說に似てゐるのである。それ故、女は梵天にも、帝釋にも、魔王にも、佛にも成る事が出來ぬ。其點から云へば、女は生きて生甲斐がなく、死んで死甲斐がないと云ふ情ない結論に到着するのである。

更に『女に十二の角あり』と云ふのがある。是はどう云ふ

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

事を指して云つたのだかよくは解らぬが、兎に角、女は本質的に罪深いものだと云ふたのには相違ない。そして子を生む度に一つ宛角が取れて行くのだと云ふ。詰り子供の一ダースも生まねば、持つてゐる角を全部なくする事が出來ないと云ふ譯になる。次に『七人の子をなすも女に心を許すな』、『女心と秋の空』て、變り易く信頼し難いものは女である。女の心てある。是は必ずしも昔の女に限つた事ではなからう、好いた、好かれたと云つて、世間の反對も親の意見も肯かずに自由結婚をした夫婦が、一年二年とたゝない中にお互に厭やになつて、別れて了ふのはよくある例である。

又、『女の情に蛇が棲む』と云ふのがある。女と蛇と云ふのは餘程深い因縁があると見えて、基督教にも佛教にもそれが勿論比喩てはあらうが、竝び說かれてゐる。パウロの言葉として傳へられてゐる『女と共にあらんより蛇と共に住む方よし』、なども可なり手酷しい方であらう。『一度女を見れば目の功德を失ふ』『大蛇を見るも女を見る勿れ』『女は亂の基』など、宗教に於ては、皆、女を罪なものとして罵倒してゐるのである。

◎女三人あれば身代が潰れる

第五には、女を不經濟と見る諺である。『女三人あれば身代が潰れる』『女戸主は三年限り』『女は着物が生命から二番目』等、皆、女の濫費的方面、不經濟的方面を槍玉にあげてゐる。女三人あれば身代が潰れるとは、昔許りでなく今の時代にも適切な諺で、私の友人に長女と二女を嫁にやり、その支度に莫大な費用がかゝつたので、非常に悲觀してゐる人がある。結婚などに就ても、何とかもつと簡單明瞭に行かないものかと、私は始終思はせられる。是らも女は着物が生命から二番目と云ふ諺の通り、着物に對する女の趣味愛着と云ふものが生み出す習慣て、如何ともしやうがないのである。そこて『娘三人あれば爐の灰も皆無となる』と云ふ諺も出來て來る譯になる。私の妻も、嫁に來てから十七八年になるが、未だに時代後れの着物を大切に保存してゐる。私は結婚して以來唯の一枚も妻に着物を買つてやつた事がないから、詰り嫁に來る時、親に拵へて貰つた物許りて何れも時代後れてある。とても今時、着られるものぢやないと思はれるが、その着られたものぢやないと思はれる着物を、極めて大切に、それこそ生命から二番目に可愛がつてゐるのを見ると、成る程女だなアと云ふ事を泌々思はせられる。

第六には女の無智、無力、無思慮を嘲つた譬で可なり痛烈である。即ち『女の話は人里限り』とあるやうに、女はどんなに智慧のあるやうに見えても、畢竟するに淺慮て、上つ面て、猿智慧に過ぎない。だから話をさせても自分の住んでゐる町内の事か、村内の事を話す位に止まつてゐる。とても世界の大局はどうであるのと云ふやうな事は解らう筈がない。是は昔の女は確かにさうであつたらうと思はれる。今の女は大抵、新聞雜誌を毎日のやうに讀んでゐるから、斯うした無智な者のない事は改めて申す迄もない。次に同樣に女の淺慮を嘲弄したのに『女の鼻元思案』『女の智慧は鼻の先』『女の考へは後へ廻る』『女の猿智慧』などがあるが、詰り女の言聞くべからず、用ゆべからずと云ふ事になる。甚だしいのになると『女の張る弓では射られず』『女の智慧は三割引』と云つたやうなのがある。

第七には、女の智慧を嘲弄するのみでなく、女が智慧ぶる、智者らしく振舞ふのを罵る譬で『女の發明牛の値が下がる』『女賢くして牛を賣り損ふ』『女の利口より男の馬鹿』『女に學問は不要』などゝ云ふのがあるが、是は少し男の我儘から出

て來たものやゝうにも思はれる。女が淺智慧であり、馬鹿であるならば、男たるものは進んで女を賢くする爲めに努力せればならぬ筈だ。然るにさうした努力もせずに、女に學問は不要などゝ云ふのは、どう考へても道理に反してゐる。

第八は男尊女卑の諺で是は非常に多い。孔子などでさへ、女を指して『近づくれば即ち不遜』と云つてゐる程で、男尊女卑の諺は、儒教や佛教の中には、一々あげ切れぬ程多いのである。『女天下は喧嘩が絶えず』『女に白い歯は見せられぬ』『女に大事は明かされぬ』。是が吾々祖先の女性觀であつたのである。詰り男を非常に高い者、優れた者とし、女を低い者、劣つた者とし、かく觀察批評する事によつて當時の男性は滿足を感じてゐたものであらう。

◎佛教は女を侮辱せず

以上は大體に於て、我國に現れた女の諺であるが、無條件で是を肯定するかと云へば、今の時代の人は、可なり頑冥な舊思想の人でも躊躇するであらうと思ふ。女自身が是を承認せぬ事は是又云ふ迄もない。

孔子ですら、女子と小人は養ひ難しと云ひ、佛教でも、女は不淨な者罪深い者であるから到底此儘では救はれぬと云つてゐる處から、儒教と佛教とは、誤つた女性觀を東洋人の頭の中に植ゑつけたと云つて非常に兩教を嫌つてゐる人がある

然し儒教は兎に角として、佛教が果して女性を嘲弄し、侮辱し、無視してゐるかと云へば必ずしもさうでない。人間が諸々の煩惱を斥けて、悟りを開かうとする場合に邪魔になるのは、肉慾であり、女を慕ふ愛の心である。そこで道に精進し、開悟の域に達せんとすれば、勢ひ、女を遠ざければならぬ。故に人をして悟りを開かしむる手段として、善行方便として、女を呪つたと云ふ點も可なりあるやうに思はれる。

佛教の根本精神は決して女を侮辱せぬ。否、却つて尊敬してゐるのである。豈女のみならず、釋尊の教へによれば、山川草木悉く佛性なり、故に悉く成佛するとあるが、無心の山川草木でさへ成佛するならば、まして人間である女が成佛されぬと云ふ事は、道理から考へてもありやう筈がない。此點を摑んで自己の教義となし、幾多の善男善女に眞の光明を與へたのは親鸞上人であつた。山川草木にさへ佛性あるを認めた親鸞は、女性の中にも佛性を認め、非常に是を尊敬したのである。

詰り、吾々は現代人の滿足するやうに、佛教を改造してゆく事が必要である。誤られたる諺、誤られたる女性觀によつて、女の地位は著しく下落してゐるが、吾々は佛教の力によつて、誤られたる觀念を一掃し、そして女の地位を高めて行くと云ふ事に力を盡したいと思ふ。

然し、さうは云ふものゝ、婦人に對する男性の侮蔑を一掃し、その地位を高めてゆく最もよい道は、婦人自身がよくなる、偉くなると云ふ事である。婦人自身が偉くなりさへすれば、吾々男性は婦人を侮辱するやうな諺が山のやうにあらうと、偉い婦人を尊敬するに決して吝なるものではない。

過日東京市の市會議員の改選の行はれた際、私は三度許り乞はれて應援演説に行つたのであるが、三度共非常な盛會で、四千五百人も聽衆があつたのであるが、其中に婦人の傍聽者は一人もなかつたのである。丁度治警五條が撤廢され、婦人も政談演説をきけるやうになつた許りの、最初の市會議員の改選である。或侯補者などは『特に婦人の傍聽を歡迎す』と廣告迄してゐたが然も一人の傍聽者もない。是では實に情ない事と云はねばならぬ。

斯う云ふ事であつては、折角吾々が婦人の爲めに一肌ぬがうとしても、ぬぎ甲斐のないと云ふ事になる。力を入れても入れ甲斐がないと云ふ事になる。大東京の市民たる婦人諸君は、ちつとは自分等市民の代表者を選ぶ所謂市議改選の問題に對して、興味を持つてもよささうに思はれる。私は切に婦人諸君の覺醒を促してやまぬものである。（文責記者にあり）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

犯罪者の救濟

大審院長
法學博士 平沼騏一郎

□犯罪に對する報復觀念

最近、我國に於ける犯罪者は年々增加する傾向がある。現在の在監人は約五萬はあるだらうと思ふが、人口に比例すれば可なり多い方であらう。犯罪者と云つても監獄に入つてゐる者許りに限られてゐるのではない。もつと大きな罪を犯しても巧みに法網をくゞりぬけ、平然と社會を横行濶歩する者もあるやうである。

然し犯罪と云ふ言葉は非常に厭やな言葉である。斯く云ふ私自身もそれを聞いて餘りいゝ感じがしない。矢張り厭やな氣がする。厭やな氣がする丈けに吾々は犯罪者に對しては、報復の念が起り易いものである。放火殺人強盜などの重罪犯と聞けば尙更である。そんな恐ろしい罪を犯した人非人は、宜しく重罪に處すべし、死刑の宣告を與ふべしと云ふ報復觀念が起る。それが普通の人情から云へば當然の事であるかも知れない。

たとへば吾々の家庭內を觀察しても斯うした例はいくらでもある。子供が惡戯をする。同じ惡戯にも輕いのと重いのとがある。輕いにも重いにもせよ。惡戯をすれば親としては子に、兄としては弟にそれ相應の懲戒處分を行ひたがる。是は惡い事であるかも知れないけれども、人情の弱點で仕方がない。然らば斯うした報復の念からする懲戒處分はいゝ結果を齎らすかと云へば、必ずしもさうではない。罪人を罰すれば罪惡が自然此世界から消えて行くと考へるのは極めて淺薄な思想である。寧ろ罰せられた事によつて益々其犯罪者の反抗心を昂めて行くと云ふ結果になる。そこで懲戒よりも保護の必要を高調して行かねばならぬ事になる。

□有害無益の懲戒處分

然し是も實際の場合に當嵌めて解釋すると非常に六ケしくなつて來る。私は決して懲戒處分全廢を主張するものではないが、兎に角懲戒に重きを置く從來の方法が誤つてゐる事丈けは確かであると思ふ。懲戒よりも免囚保護と云ふ點に重きを置くやうにならねば、犯罪の數を減らすと云ふ事に就ても好成績をあげる事は六ケしい。

それが爲には是非共報復觀念で固まつてゐる吾々お互の頭を改造する必要がある。社會と云ふものを吾々自身と關係の遠いものと考へないで、もつと近いもの親しいものと云ふ感じを持つ事が必要である。換言すれば社會も吾々の家庭なりとの信念である。「四海同胞」と云ふ言葉は斯うした信念の內

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

容を説明してゐる。卽ち此社會に生きてゐる者は皆吾々の家族てある。故に吾々は家族の一員に對しては、慈愛の心を以て是に接せねばならぬ。訓戒するにもせよ。懲戒するにもせよ。若し此慈愛の心がなければ何にもならぬ。百害あつて一利なしと云ふ結果になるてあらう。昔から今日に至る迄、犯罪者に對する懲戒は餘りにもあり過ぎた。報復觀念の强い人類は此外に犯罪者の處置を知らなかつたのてある。其結果罪人が減つたかと云へば決して減つてゐない。否、處罰方法が辛嚴なればなる程犯罪者は返つて增して行く傾向があそ。

斯うした結果を見るにつけて、法律萬能、刑罰萬能てはどうしても不可と云ふ事になつて來る。それには報復觀念をすてゝ是に代ふるに彼等を保護すると云ふ慈愛の心を持たねばならぬが、此慈愛の心は單に人類のみならず、鳥獸草木昆蟲に迄及んてゆくものてあつて、さうなつてこそ始めて人道と稱すべきものてあらう。『朝顔に釣瓶とられて貰ひ水』『行水のすてどころなし蟲の聲』などの古人の句は此間の消息を謳つてゐるもので、人間の慈悲心が無心の草木昆蟲にまて及ぶ心理が、十七文字の中によく現はれてゐる。

□國家の本體は卽ち道德

草木昆蟲に迄も斯うてあるとすれば、人間に對しては尙更の事てある。社會の共同生活は何によつて保たれるものてあるかと云へば、人と人との道德的連鎖によつてゞある。一家一町村を始め國家としても同樣て、若しも此連鎖が切れて了つたら社會の組織は根底より崩れて了ふ事になる。

或人は國家の本體は權力にあると論じてゐるが、私はさうは信じない。權力の上に立つてゐる國家は非常に弱い。遠くはバビロン、アッスリヤ、埃及の時代より今日に至る迄、權力を以て立つた國もあつた。然し權力の上に建てられた國は權力の消長によつて、或ひは起ち或ひは倒れたのてある『劍を以て立つ者は劍によつて滅ぶべし』とは此間の消息を道破してゐるものてあらう。然し私は國家の本體が權力にあるとはどうしても信ぜられぬ。然らば何が本體てあるかと云へば私は道德てあると信ずる。是は極めて平凡な解釋のやうてあるが決してさうてはない。國家を組織する根本となるものは冷たい法律や相互の約束のみてはなく。人と人との道德的連鎖によるのてある。

たとへば我國は、建國以來皇道を以て道德の根本として來た。從つて尙武の國なりと云ふ。尙武などゝ云ふ言葉を聞くと非常に武張つた殺伐なやうに思はれるが、よく其精神を嚙み分けるなればそんな殺伐なものでない事が分るだらうと思ふ。卽ち『武』とは戈を止めると書くやうに、其中には平和の意味が含まれてゐる。武は徒ちに弱者を攻め滅ぼすものではない。寧ろ弱きを助けて强きを挫く事を云ふ。否、正義に加擔して不義なる者を膺懲する爲のものてある。是を深く解せぬ外人は我日本が尙武の國だと云へば、兵を動かして他國を侵略する事てあるかの如く誤解してゐるが、謬れるの甚だしきものと云はねばならぬ。何故に此世界に戰爭が起り騷動が起るか。不正不義の徒が跋扈するからてある。眞の平和を此地上に持ち來たらさうとすれば、かゝる不正不義の徒を滅ぼ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

さねばならぬ。滅ぼすにはいやでも應でも武を用ゐる必要が起る。平和を希求する意味から武を用ゐてこそ、始めて尚武の精神に協つたものと云ふべきであらう。

□法律は人民を保護するもの

武力も征服や侵略の爲に用ゐるのではなく。此地上の平和を攪亂する世界人類の敵に對して用ゐてこそ、始めて武力：眞の武力の發揮されたものと見る事が出來るが、法律に對しても是と同樣の事が云へると思ふ。人は稍もすれば法律は恐ろしいもの冷たいものと云ふ感じを持つてゐるやうである。然し眞の法律は決してそんなものではない。人類の世界に眞の平和を實現する爲め、換言すれば社會の秩序安寧を維持する爲に法律は造られた。是あるが故に不正不義の徒に對してドシ〳〵制裁を加へる事が出來る。良民が枕を高うして眠る事が出來るのも是あるが爲である。一言にして云へば法律はお互を保護するものである。それを深く解せずして法律に對し呪ひの聲をあげてゐる者の如きは、思はざるも又甚だしきの徒と云はねばならぬ。

斯う云つたなれば或人は云ふかも知れない。『成る程お説の通り法律は人民を保護する爲に造られたものに相違はあるまい。然しそれが爲に不正不義の徒として檢擧され、然も獄舍の中で虐待される犧牲者はどうであるか。たとへ惡い事をしたとは云ひ、不當な苦しみ迄も是に與へるのは如何なる理由によつてゞあるか。』と。是は一應最もなお説のやうであるが、罪人に對する處刑と云ふ事も徒らに苦しめる爲のものではない事をお互に知つて置かねばならぬ。從來の警察とか法の施行者とか云ふ階級の人が、罪人に對する遣方が餘り峻嚴に過ぎた爲、遂、斯うした誤つた考へを一般の人に與へて了つたでもあらうが、それはそれとしてどんな法律乃至處刑でも、罪人の改善保護を眼目としてゐないものはないと云つてもいゝのである。

□親を殺しても惡事と覺らず

昔、或大名の領內に親を殺して死刑の宣告をうけたものがあつた。愈々刑を施行しやうとすれば君侯の認可をうけねばならぬ。然るに此親殺しの大罪人も大名の前に引き出されて調べられても、少しも惡びれた樣子もなく『自分は確かに殺したには相違ないが、惡い事をしたのではない。殺された親の方が惡いので殺した自分には些かの不正不義もない』と飽く迄も主張して容易に服罪せぬ。誰が考へても親を殺したのだから惡いに相違ない。然し殺した當人が惡いと覺らないのではどうにも仕やうがない。そこで判官の間にどうしたものであらうかと度々評定も重ねられた。たとへ惡いと覺らうが覺るまいが構ふ事はない。直ぐに死刑に處して了つたがいゝと云ふ説も大分多かつたが、時の大名は非常に情深い人であつたので『親を殺しても惡いと覺らないとは實に氣の毒な人だ。さうした人倫の大道さへ辨へぬやうな無學者は憎むべきではない。寧ろさう云ふ人に敎育を授けないでゐるお互が惡いのだ』と、それから或學者を招いて三年の間、牢屋の中で毎日のやうに道德の根本に就て敎育を施した。其結果、親殺

しの罪人も始めて自分の惡い事を認めて悔悟の涙にかきくれたので、『是なら宜しいであらう』と其時始めて刑を執行したと云ふ話がある。

其場合になつても尙死刑に處したと云ふのは、少し保護の意味に反してゐはしないかと云ふ者があるかも知れないが、然し其精神に於ては同一であると思ふ。親殺しの大罪を犯した。故に何が何でも死刑にして了つたらいゝと云ふ遣方ではない。同じ刑に處するにしてもそこに溫情が漂つてゐる。其罪人の精神を改善してやらう。敎育してやらうと云ふ同情の念が働らいてゐてこそ、始めて法律の精神が生きて來るのである。

□罪人に對しては何よりも溫情

以上述べたやうに、總て刑の執行には仁愛の心が含まれてゐなければならぬ。刑に對する方法や手段は變るけれども、此仁愛の精神には變りがない。歐米に於ても罪人に對するの處刑は、當然の應報なり報復なりとの觀念が曾ては强かつたのであるが、今では全く改善された。今の監獄は決して罪人を膺懲する所ではない。是を敎育して眞の善良な紳士良民とする所であるとの觀念は、歐米諸國の先覺者の間に勃然として起つて來たのである。

此仁愛の心は我國固有の精神とも稱すべきもので、吾々の祖先は非常に是を尊んだ。罪人に對してすら同情の念が動く。それを名付けて大慈大悲の心と云ふのである。云ふ迄もなく人類は萬物の靈長であると云ふに誰にしても異論を挾むものはあるまい。果して萬物の靈長であるとすれば、人間の精神の中には何かしら黃金白金を以ても買ふ事の出來ない貴いものがあるに相違ない。其貴いものゝ何であるやはこゝで論ずる事柄ではないから、お互の判斷と自覺とに任せて置くが、兎に角天然に具有する精神に於ては、罪人と雖も變りはない筈である。

それが何故罪を犯すやうになるかと云へば、遺傳、習慣等を始め、社會に於ける誘惑卽ち環境等も與つて力あるもので、罪を犯すと云ふ事が決して人間本來の面目ではない。此點から生來の惡人と云ふ者は決してあるものではない。是を導くに適當な方法と敎育とを以てすれば、必ず改化遷善する事が出來るのである。此仁愛の心同情の心なくして罪人を處置しやうとするから問題が起る。人權問題の起るのは皆此精神が缺乏してゐるからである。吾々は大いに反省し發奮して此精神を發揮する事に努力せねばならぬ。

人間は皆、生れ乍らにして善人である。それが以上述べたやうな生活上の環境によつて罪を犯すやうになる。詰り立派な心が汚されたのであるから、吾々は彼等の同胞の一人として、その汚れた心をとつてやる、淸めてやる事が何よりも大切である。それが爲には精神的敎育を施さねばならぬ。最近智識階級者にして罪を犯す者の頻々としてあるは如何にも慨嘆に堪へぬ事であるが、是らも眞の意味の精神敎育をうけてゐないのであるから、吾々はお互に注意して罪人の保護改善に力を盡したいと思ふ。（文責記者にあり）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

日本人の最大缺點

文部省圖書局長
文學博士　幣原坦

□平時の心掛が大切

吾々日本人には數多くの美點がある。たとへば教育勅語の中にある『一旦緩急アラバ義勇公ニ奉ジ』とあるやうな所謂尙歩の精神、一旦事あるの日は君の爲め國の爲め一命をすてると云ふ、忠君愛國の精神に於ては他の民族よりも遙かに優れた特長を持つてゐる。

是は云ふ迄もなく日本民族の特長であるから、今後と雖も大いに此精神を養成し且助長せしむると云ふ事に力をそゝがなければならぬのであるが、たゞ私の平素遺憾としてゐる事は、『一旦緩急アル』場合には『義勇公ニ奉ズル』日本人も、事なきの日に於ける覺悟と精神が他國民のそれよりも、劣つてゐるのではないかと危ぶまれる點にある。

教育勅語から申上げるなれば『義勇公ニ奉ジ』の次に『進ンデ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ』と云ふお言葉がある。一旦緩急あらばとは云ふ迄もなく戰時に於ける覺悟を敎へたもので、進んで公益を廣めとは平時、事なきの日に於けるそれを敎へたものである。戰爭は一國の安危興亡の定まる大切な時であるから、此場合に身を以て國に殉ずると云ふ精神が國民の間にないとすればそれこそ一大事である。けれども戰爭と云ふものは、歷史を見ても十年に一回二十年に一回と云つたやうに起つてゐる、故に是は人間生活の常態と見做す事は出來ない。明らかに變態である。恰かも人間の生活過程に病氣と云ふものが發生しても、病氣そのものが決して生活の常態と稱する事が出來ないと同一である。吾々は時として病氣に罹る事があつても健康で暮らす日の方が遙かに多い。國と國との間に又は一國內に時として戰爭や內亂の起るやうな事があつても、平和で暮らす日の方が遙かに多いのである。

□女なら醜業婦と誤解

此點から戰爭は一國の文化に取つては恰も病氣のやうなものであらうと思ふ。病氣と云ふものは吾々の生命に關するやうな一大事の場合であるから、從つて其場合に於ける精神と云ふものが珍重される。其點は恰かも病氣の場合に藥を珍重する心理に似通つてゐる。

然し吾々は藥のみで生きられるものではない。それ程人が其效驗を感ずる事が痛切でないけれども、人間は榮養分滋養分を攝つて生きてゐるものだと云ふ事を忘れてはならないと思ふ。

戰爭の場合に陛下の馬前に於て討死する覺悟は大いに必要である。然しそれと共に平和の時代に『進ンデ公益ヲ廣メ世務ヲ啓ク』事の必要なる事を忘れてはならない。此公德心人道心を放棄しては眞に我國を優れた文化の國にすると云ふ事は六ケしいのである。此點に於て吾々日本人は果して他の民族、殊に西洋諸國の民族と比較して優れた生活をしてゐるであらうか。私は冷靜に考へて大いに疑

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ひなきを得ないものがある。

一 私は故伊藤公に從つて最初に朝鮮に渡つて、彼地に於ける教育の開拓に些か乍ら盡力した經驗上、朝鮮人が吾々内地人に對してどんな思想を持つてゐるかを幾分か知つてゐる心算である。又支那から南洋地方並に歐米方面を視察に行つた事もあるが、其都度、外人の日本人觀を豫期せずして自然に聞かされた事もあり、自分から進んで調査した事もあるが、其結果どうも悲觀すべき結論に到達した事を私は愛する祖國の爲めに深く悲しむものである。

然らば其悲觀すべき結論とはどう云ふ事であるかと云へば、「日本人は餘りに利己的な民族である。自國の利益のみを圖つて他國民の利益は眼中に置かぬ」と云ふ批評である。勿論外人の中にも日本贔負の者が數多くあるのだから、彼等の總てが斯うした日本人觀を持つてゐるのではあるまい。然し尠くとも彼等の大多數が斯うした考へを持つてゐる事丈けは確かである。私が教育視察の爲めに南洋地方へ行つた時にも、さうした意味のある視察に行つたのだと云ふ事が理解されず侮辱されたと云ふ言葉は少し過言であるが、尊敬されない數ヶ月を過して可なり氣持を惡くした事があつた。手つ取り早く云へば南洋人の大多數は日本人と云へば、男なら不當な利益を貪らんとする商人か乃至は探偵、女なら悉く醜業婦の類だと誤解してゐる。

吾々は日本人である丈けに、斯うした誤解をうける事は非常に辛い。又憤慨の念やむ難きものがある。然し吾々は斯うした考へを持つてゐる外人を咎むべきであるか。咎めるよりも先きに斯うした日本人觀を彼等に懷かせた吾々同胞を咎むべきではないか。吾々の生活を反省すべきではないかと云ふ事を私は深く考へざるを得ない。

□餘り利己的な日本人

何故かと云へば南洋が我が統治權内のものとなつた。青島も同樣我が統治權の下に屬したと云ふ場合に、第一に其處へ移住する者は何人であるかと云へば、一攫千金を夢見るの商人か、乃至はそれを目當の醜業婦等が大多數である。内地に於てすら擯斥される樣な如何がはしい人間が、遠慮會釋も無にドシ／＼移住して行く。是ては其地方の人々から嫌はれたり厭がられたりするのも無理ではない。

處が歐米人の殖民政策は日本人のそれとは全然違ふ。第一に移住して行く者は内地に於て擯斥されるやうな如何がはしい徒は一人もゐない。皆國内での模範的人物のみである。たとへば獨逸が最初に支那から青島を奪つた遣方などは、可なり惡辣とも云ふべきもので餘り賞揚した話ではないが、さて愈々統治權下に屬してからの殖民政策は非常に立派なものである。第一に學校を建てゝ支那人の子弟を薫陶する計畫を立てる。慈善病院を建てゝ貧民の病人を救濟する。次に宣教師が渡つて行つて教會を建てる。そして其土地の精神的文化に貢獻するからして、餘り不平を云ふ者がなくなつて了ふ。換言すれば支那人が統治してゐるよりも、歐米人が統治してゐる方が其土地の人々から見れば利益する事の方が多い。文化の向上に就ては遙かに支那人のそれよりは貢獻するから、ちつと位の不平はさらりと水に流して忘れて了ふと云ふ結果になる。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私は青島がまだ我國の統治權にならない以前、彼地へ視察の爲め行つた事があるが、其時獨逸人の經營してゐる青島鐵道會社を訪問して、新しく其經營方法の實狀を聞いたのであるが、其方法の文化的人道的なのに非常に感心したことがある。たとへば最初に此鐵道の敷設が獨逸人によつて計畫された際に、彼等によつてどう云ふ案が發表されたかと云へば、何事によらず支那人を利益すると云ふ事が條件の一つとなつてゐる。卽ち其社則の第六條かに『青島鐵道は大部分支那人を用ひて經營する』と云ふ規定がある。是は實に賞揚すべき立派な規定である。此鐵道の工事は支那人を多く用ひたからして彼等は非常な利益を得た。交通が自由になつて利益する事が多い、從つて貨物を運搬する事が自由になつたからして其附近の生產物が騰貴すると云つたやうな譯で、國家としては青島を失つたけれども、事實支那人はそれによつて利益する事が多かつたので、從つて不平を云ふ者も尠いと云ふ事になる。

□排日故なきにあらず

更に例をあげて云へば、現在支那に於ける最大の會社として有名なるは、上海にある英米煙草會社であるが、此の設立の動機や經營方針等も非常に賞揚すべきものがある。此大會社は主として英米人の經營してゐるものであるが、今から數十年以前に支那人が極下等な煙草を吸つてゐるのを見て、一英人が上等な煙草の種子を是に與へた事に其端を發してゐるのだと云ふ。

種子を貰つた支那人は試みに是を栽培し見た處、非常に上等なものなのでドシ〱栽培するものが出來て來た。其結果到底支那内地丈けでは費消し切れないと云ふので、輸出を目的とした今日の會社が創立されたもので、栽培から買上げ迄悉く支那人の手に委せ、會社はほんの最後の利益丈けを占める方針をとつてゐるので、支那人は非常に會社を信用してゐる。

然るに是が日本人であればどう云ふ經營方法をとるかと云へば、何等も日本人の利益になるやうに事を圖る。或土地が日本の統治權に屬したと云へば、直ぐに鐵道敷設の運動を始める。のはいゝが愈々許可されると工事に從事する者は皆高い旅費を拂つて内地から日本人をつれて行つてやらせる。偶に支那人朝鮮人を傭ふ事はあつても日本人よりは三割も五割も安い賃金を支拂ふ。それで日本人のそれよりももつと働かさうと云ふのだから排日運動も起らうと云ふものである。日本人に土地を占領されると土地の人々は失ふ許りで何ら得る處がない。甚だしいのになると『子供に賣る飴屋迄日本からつれて來るではないか』と云つて彼等は日本人を批難してゐる。そこへ醜業婦がゾロ〱出掛けて行くのだから排斥されるのも又やむを得ない。

更に飜つて米國に於ける同胞を見ても同樣の事が云ひやう。『日本人は加州の爲に鴻一羽も放してくれない』と移住した吾々の同胞を批難してゐる米人もあるが是らの排日の聲を聞いて憤慨するよりも先きに吾々は大いに反省して見なければならぬ。公德を無視して得んとする者は返つて失ふと云ふ結果になる。吾々は忠君愛國の精神を愈々發揮すると共に、總ての人類に對する公德と博愛の精神をも涵養する事が必要であると思ふ。（完）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

藝妓周旋業に就て

木藤冷劍

□「泣き顔があれ位だと女衒言ひ」などといふ川柳がある。之は昔の娼妓周旋業者の事を言ふたものであらう。身を賣つて人參を買ふて貧しい家の子女が親の病を全快せしむるために、犧牲になつたりする舊道徳を謳つた川柳に「孝行を不孝者めが買ひに行く」などといふのがあり、又「孝不孝二つならべた塗枕」などといふ頗る皮肉な川柳もある。

今では女衒とは云はない、藝娼妓周旋業者といふて公許の看板をあげてある。横濱では電車の大路から見える川一つ隔てた所に「御希望の地に親切迅速にお世話する」といふ様な立札があるのを見た。本號には其周旋業者の扱へる成績及娼妓となり藝妓となつた者の數字を列記する事とする。

此調査は昨大正十年中の成績にて、各府縣警察部の調査になるものである。

今では公設の職業紹介所といふものが全國の大都市に出來て來て、大抵無料で紹介して呉るのが約百ヶ所近くある。玆では娼妓藝妓の紹介はしてゐないから、娼妓周旋業といふのは一般口入業者が潰れても此等許りは依然として殘るであらうと思ふ。

周旋業者の外に「玉出し」といふのがあつて、大抵貧しい家の娘のある内に絕えず出入したり、料理店の酌婦などの連絡を取つて樓主に賣り込むのである。之は公然と許可はしてない。浮浪徒性の者や地所賣買周旋の下廻りのやうな奴がやつて居るのである。之は一定の規定のない限り双方から三十圓乃至五十圓は取れるので可なり收入にもなる。一面には辛辣なる妖舌を揮ふのである。近來斯うした娼妓、藝妓になる婦人にして素人出の女は殆んとなく、道樂な工場の工女が料理店へでも賣られて前借金が嵩んで致方なく、身を苦界に陷れるといふやうな傾向が多い事は昨年來各地の情況を調査して知つたのである。東北方面や三重縣中國方面等でも調査した。此結果は逐次誌上に發表するが、周旋業者でさへ呆れてゐるやうな道樂な女で紊亂せる家庭の女が多いのである。

□尤も之の外に酌婦の周旋業者がある。之もなか〳〵惡辣な手段を揮ふのである。之は私が愛知縣に居る頃扱ふた事件であつたが、かなり道樂な娘があつた。家には老母と放浪性の弟があつた。娘は頗る美人であつたが弟が入營するといふて、田舍の農村の事とて酒や肴で見送りの人に出して貧しい家とて三十圓許り不義理の借財ではないが、とにかく借財ができた。のでよせばよいのに女中奉公？料理店に住み込まされ二ヶ月に七回も轉々して二ヶ月後に三十圓の借金が七十餘圓になつて居た、其周旋人は某といへる樓主の弟であつたといふやうな事を聞いてゐる。私が當時、自由廢業の爲めに奮鬪

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

した關係上斯うした女の救助方を頼まれた事があつた。左の統計は「廓清會」の事業としては誠に有用な統計であると思ふから、毎度數字であるが今一回此方面の調査を發表したいと思ふ。

府縣	求人數（藝娼妓）	求職者（藝娼妓）	就職者（藝娼妓）	營業者數（女街）
北海道	一、四八二	一、七八六	一、三三八	一六三
東京	三、〇六五	八、六二二	五、一三二	二三九
京都	四、〇五一	三、一一七	一、六三九	六四
大阪	九、一八八	八、五四四	五、四五一	一五九
神奈川	二、六九一	一、二五五	六六九	一九九
兵庫	二、一四八	一、五六六	九六一	三四
長崎	五二八	二四五	六三一	六八
新潟	五四三	五一六	五四三	八九
埼玉	—	—	—	—
群馬	二五四	一六四	一六〇	三四
千葉	一〇六	三一	一七	二二
茨城	一一二	一二三	九九	二七
栃木	八七〇	七七二	七七八	四一
奈良	五二九	一八四	一二八	三三
三重	五二八	三九〇	三八二	八九
愛知	不明	九、三三二	七、七四四	三一六
靜岡	七〇七	六五五	四一二	五九
山梨	三三四	二四五	一九九	二一
滋賀	—	—	—	兼業九
岐阜	一、五八二	一、五三六	一、四四三	五〇
長野	五二九	三〇〇	二八〇	二
宮城	—	—	—	—
福島	六四	六四	五八	五
岩手	三九二	二八一	二八一	兼業
青森	一五一	七〇	一七九	—
山形	八〇	七六	七六	九
秋田	一四	二九	二九	一
福井	—	—	—	—
石川	七三九	五〇八	四〇七	四七
富山	一、〇二六	五七六	五三八	六九
鳥取	三二〇	一四四	六三	七
島根	四三	八〇	八九	兼業
岡山	七三九	四一四	三四五	二六
廣島	四、一四七	二、三五一	二、〇六〇	一〇六
山口	一七二	一、〇〇〇	九四九	五六
和歌山	五五二	四五五	三八六	三五
德島	二五三	一三一	一八〇	二
香川	四一五	三八〇	三七四	五一
愛媛	四一四	四四七	四三一	四九
高知	三五九	三五九	三五六	三二
福岡	二、三三二	二、一七九	一、六三〇	一〇七
大分	一二	四六	四五	五
佐賀	二八三	二六四	二〇〇	一九
熊本	四三九	五一三	五六六	三六
宮崎	—	—	—	—
鹿兒島	六七二	四一七	二六二	二〇
沖繩	二	六八	六六	五
計	五一、五四三	五〇、二〇三	三七、五七六	一五八三

之は協調會の中央職業紹介局が普通紹介事業と比較參考のために各警察部に問合して回答を得たるもの丶拔萃で、日本に於ける最初の試みの事業たる失業問題の研究統計と、風教問題の攻究の任にあつて常に健闘しつ丶ある吾徒に取つては無二の好材料であるが惜しい事には回答のない所がある。之は誠に殘念の事であるが致方がない。實の所予も昨年廓清會の十數年を紀念として各府縣の娼妓、登錄、削除、費消金員、登樓人員樓數、藝妓、酌婦、飲食店、料理店、結婚離婚統計娼妓となる原因等其他細別にわたる調査を試みたるが、全部の回答を得る能はず三府四十八縣の内四十縣迄は集つたのであるが、全部が集らないため遺憾ながら分類して毎號掲載して居るやうな次第である。此統計も十全を期し難いが之は止むを得ない事であるが。後日の完成を待つて本號は之に止めて置く事とする。實は公娼、私娼の續稿の豫定なりしも突發

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

せる地方の故事や、新しい調査の發表等があつたために、來月からは交々掲記して參考に供し、其間に於て補足する考てある。

大正十年中の娼妓の求職者は五萬〇二百三名にして、之れを要せし樓主求人數申込は五萬一千五百四十三名に達し、就職者——、娼妓となりしものが三萬七千五百七十六名てあつた。女衒の數が一千五百八十三名てあつた。尤も中には兼業のものもある。

普通の職業紹介所てあつては到底かゝる良成績は見られないのてある。毎旬協調會にて發行する職業紹介時報を見ると判るが、求人五萬一千五百四十三件に達して其内就職は三萬七千五百七十六件に達する。之が普通の業務なれば喜ぶ事なれ共公秩良俗を破り社會風敎を賊する藝娼妓の業なるに於ては、あまりの淺ましさに予は言ふの語を知らないものである

□藝妓の食費

第六月號に長崎遊廓の新社會施設と題して同市の戸町貸座敷は共同炊事場を設け、又浴場をも建設せんとし一日食料僅か二十三錢にて賄ひ居る事は既報の如くであるが、茲には藝妓の食料が値上になつた處がある。

神戸市花隈新中の藝妓の食料といふものは、従來抱え妓て一ヶ月七圓乃至十一圓を置屋主人に差出すと共同事務所の規約に載せてあるが、ソンナ安い食料て引き合ふ道理がない。中には室代十六、七圓食料十二圓を徴收してゐる置屋もある。區々に亙つてゐるので今回新中共同事務所から食料として二十五圓を頂戴して、今までのやうにやゝこしい名目て藝妓から金を徴收することを統一したいと其筋に願ひ出た。而して七圓乃至十一圓てあつた食料か一躍二十五圓に跳れ上るのは考へものと當局は首を捻つてゐる。

□娼妓の貯金

靜岡双側の貸座敷に於ては、强制貯金を娼妓に實行せしめ好成績なる事は昨年七月號の誌上に掲載せし如くなるが、其後の情態はどうてあらうか同市警察署の調によると本年三月末現在の貯金が四千三百六十三圓になつてゐる。娼妓は百七十七名て一人平均廿九圓弱てある。昨年の調査の時にも一人一ヶ月一圓平均てあつた。通算した勘定てあるから本年も恰度同額てある。同市には貸座敷十三戸藝妓二百八十二人飲食店二百七十六戸料理店三十四戸酌婦四百六十七名てあつた。貯金はすべて郵便貯金にしてある。毎月五日までに各樓主が集めて出金し六日に取締事務所より郵便局に出す事になつてゐる。各娼妓の名儀になつてゐる通帳は正副二通があつて取締が一册、副取締が一册保管して支拂不能のやうにしてある。勵行前は貯金思想がなかつたが勵行後進んで貯金をするやうになつたとの事てある。

□妊娠娼妓

丹波篠山にある京口新地の貸座敷組合ては今度縣下の各遊廓に率先して抱娼妓の稼業中妊娠した時の救濟方法を設け規約契約書變更等を縣保安課へ申請した。從來妊娠娼妓の保護に就ては各遊廓共夫々慣習に基いて箇々別々の處置を取り、甚だしきは娼妓が過失より妊娠した如く思惟して一切本人の責任負擔に歸してゐたが、夫はあまりに娼妓を酷使すやり方て時代錯誤の譏を免れない。篠山遊廓ては今度妊娠娼妓は醫師の診斷によつて分娩前後三ヶ月乃至六月の適當な休業を與へ、其間の雜費は抱主が負擔し分娩後嬰兒の養育料を一ヶ月十五圓と見積り、其半額を向ふ一ヶ年間樓主が支出して補助を與へる事とし尚分娩後直ちに他へ養子女に遣るときは其分籍の費用の半額を支出し、又分娩のため娼妓が親元に歸休するか或は他へ外出して休業する時は助産婦の費用全部を樓主に於て負擔する事となつた。是れは永い間虐げられて來た彼等の社會ては確かに福音てある。

□娼妓の公休日

嘗て大正八年越前福井市榮町の貸座敷に於て娼妓に貸座敷の協議によつて公休日を與へ休養せしむる事となつた事は、當時の本誌「廓清時言」に評論されてあつたが、近頃實行して居るか其後の成績はどうてあるかゝ聞いて見ると、公休日は一時實行したるも其效果宜しからず、且其筋の注意もあつたりして之を廢止したとの事てある。廢止後は年三回盛大なる慰安會を開く事になつたとの事てあつた。娯樂設備としては修身講話を隨時施行するとの事てある。（以下次號）

歴史と小説

徳富猪一郎

▲新聞は今日の歴史　歴史は昨日の新聞▲

歴史とは何てあるか、又小説とは何てあるか、定義は却々六つかしい。吾々は先づ普通の意味に於て平素歴史に親しまねばならぬが、又吾々は歴史と如何なる關係あるかを考へて見たいのてある、皆樣が御宅の子供たちを學校に御入れになるにも、誰れの子てあるとか、年齢何歳てあるとか認めて出さるゝてあらう。又或る人が巡査の職業に就くにも、必ず履歴書を要する。電車の車掌になるにも同樣てある。又結婚せしむる爲めに、己れの娘を外へ遣るにも先方の新郎たるべき人の教育上の經歴及其父竝に母に就き經歴其の他に關する調査をする。嫁を娶るにも同樣てある。斯くの如く總て歴史に緣を持たぬことはない。實に必要のものは歴史てある。そして新聞は今日の歴史てあり、歴史は昨日の新聞てある。

關ヶ原の役は三百年前のことゝして書いて居るものてなく今日のものとして書いて居るものてある今日より漸次延長して先住民族に遡り行くのてある。歴史の効力は孔子の所謂温古知新にあるのてあつて、過去の事十年を知るならば將來十年の事を考ふることが出來る。百年の過去を知るは百年の前途を知る爲めてある眼孔は何れも同里程に向つて動くのてある。又過去を知らぬものは未來のみならず、現在が判明らぬ。それ故に人間が世に處し事を處するには歴史程大事のものはない。史實眼を以て見るならば政治のみ歴史てない。一身一家の事柄も同樣てある。そして何處迄歴史て何處迄小説か之は頗る困難な問題てある。新聞記者たる私は本年六十歳て、四十年間記者生活を送つた。それ故に此新聞に關し大きくは言へないても、少し位は言へ得るかと思ふのてあるが、凡そ新聞に書いてある程虚僞のものはない。大概虚僞てあり間違ひてある。私の新聞のみは虚僞てないと言ひたいが、さうは言へぬ。

▲史實に依つて記述する歴史と史情に依つて創作する小説▲

第一己れの知つて居ることが間違ひてあり、甲乙丙丁の結論は總て間違ひてある。さらば新聞を罷めるべきかと云はば間違ひながらも之を見ねばならぬ。一々理窟を立てれば虚僞てあるが、然し虚僞の中に眞がある。少なくともそれらしい又は似寄りのことがある。虚僞の中に本當がある。そしてそれに由つて與へられたる暗示、眞相、事情を掴むことが出來る。部分的に虚僞てあるが、總體的に達觀すれば大體に於て間違ひてない。時としては全體間違ひもあるが、そは比較的稀てある。歴史も新聞も同樣てある。悉く書を信ずれば書なきに若かず、甚しきに至つては虚僞專門のものがある。例令虚僞專門てなく、極めて眞面目の著書てあつても、少しも間違ひがないと云ふことは稀てある。英國のフレーマンと申す歴史家がある。我が大學豫備門の教科書てあつたノルマンコンクレストは卽ち此

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

人の著書であつて、目下圖書館にもあるてあらうが、實にたいしたものでヴイクトリア時代の史實を記述したものである然るに一方にはフレーマンと同時代にフランドと申す天下の文豪があつた。私はその人の著書を愛讀したのであるが、今に於ても之を回想して愛誦を禁ずること能はぬのである。然し此人は妙な癖があつて、歷史を書くと間違ひだらけであり古文を引用すれば同じく間違ふので、フレーマンが常に其の間違を指摘して之を正すのである。然るにフレーマンが牛津大學の教授を辭した際に、不思議にも此フランドが其後を襲いたのである。そしてエラスモスの講義をやることゝなつた然し乍ら其の天稟から申すならば甲は歷史家であり乙は小説家である。

今日は歷史を省みずして小説を讀むが小説は虛僞の爲めではなく、昔を今に顯はして居るのである。小説は史實から質せば價値はない。然し乍ら史情と云ふ目から見れば、昔を今に持つて來るものである。史實と云ふものは、例へば林の木の勘定であり、史情は林その儘である。歷史は個々の事實を分離すれば歷史でなく、歷史の玉子である。此玉子が結合して動く所に眞の歷史がある。勿論小説を歷史の内に入るべきものではない。虛僞を虛僞と云ふのである。之に反して法廷のことは、あるはなしと云ふのである。此點に於て歷史の裁判は比較的樂である近い話を申すならば、英國の如きは羅馬帝國の衰亡史が十八世紀の末に出來た大歷史であつて、英國に於ける標準の歷史である。そして此書は殆んど一千年に涉りたる世界の事件を集め、事實、見解其の他非難はない。然らば此歷史に關し筆を絕つべきであるかと申すならば、決して然らずである。彼のスコットは歷史家でなく小説家である。そして其の靈筆を以て歷史的小説を書いたのである。實に彼れは此小説に依つて歷史に一大變化を與へた。そして之に血あり、淚あり、肉あり、骨あることを知らしめた。歷史は奈良の大佛であり、スコットは生きた人間である。私は小説は歷史であると言はぬ。然し乍ら歷史は小説に由つて如何に活動するか、又如何に生命を得るかを知ることが出來ると信ずるのである。

▲感動すべきユーゴーの「九十三」と西郷に關する興味ある疑問▲

又佛國革命に對し筆を染めた者は、英國のカーライルを始めとし、ミセン、ミネ、ラマルタ、ルイグラン、チエル、ウエブスター夫人其の他多くの人々であるウエブスター夫人の如きは革命を指して陰謀團の作用を說明してゐる。兎に角凡有人に依りて書かれたので、その書き方や方面や目的等多少違ふのであるが、最も深く私を動かしたものはヴイクトル、ユーゴーの小説「九十三」である。それは西暦千七百九十三年と云ふ年とダントンと云ふ人と、地理だけは歷史と同じであるが、事實に就ては虛僞が千の内九百九十九である。處が此書の革命を讀んで見ると如何にも感ずるのである。三人の人があつて、其の一人は貴族のランケン、次は平和の人たるスモルダ、その次は大將ゴーワであつて、此三人の性格、負けた人勝つた人共に活き〳〵と見えるのでロード・モルレー卿の如きは大いに感激した一人である。私は之を讀んで非常に感動したので、新島翁の一覽に供した次第である。又南北戰爭を書いた書物はグ

ランド將軍其の他多くの著書はあるが、彼の南方人の書いたミレスタン・チャーチル・タライシストを讀んで見ると、實に感ずるのてある。勝つた人は南を書かぬ。然るに此南には、北のピューリタンの夢にも知らざる立派な精神が如何に盛んてあつたかを知ることが出來る。事實は歴史、事情は小說て、鬼に金棒を兼ね併せる必要がある。

總て事實の眞僞疑はしいことが往々にしてある。予の四十年間の新聞生活に顧るも、總て疑ふに限ると云ふ感想が起る。そしてその御尻が必ず元龜天正に遡る必要がある。明治十年西郷が討死にしたと云ふことは事實てある。その事實に關し色々の評判があつたのてある。間違は死する時の情態にある。本年五月予は鹿兒島へ行つた。そして西郷の岩崎谷に行つて見たのてある。それは一の洞穴てあり岩窟てある。此處て西郷が作つたと云ふのは百戰無功云々の詩てあつて、石に刻り付けてあつたのを、近頃になつてそれは實際西郷の作りたる詩てなく、杉子爵の詩てあると云ふ說が有力となつた爲めに、最近はその詩を磨り落したとのことてある。又城山の人々に依つて彼の「孤軍奮闘破圍來」の詩は西郷の詩てあると唱へられ、且つ薩摩琵琶や筑前琵琶に依つて一層廣く傳へられてゐるが、あの詩は實際のことを言へば、長崎の西道仙か又は千葉の總正寛の作りたるものてあると唱へられ、兎に角作家が二人あるのて相當に議論がある。斯く考ふるならば何處迄本當てあるか、虛僞てあるか判らぬのてある。又自記自傳必ずしも信ずるに足らぬ。氏名、年月日、何年前、場所等克く取り違へるものてある。又覺え違ひがある。昔の人の日記は新聞の價値と同樣てある。又風說を書いたのがあるので、虛僞と本當の間にある。それ故に歴史家の見識が必要てある。

▲歴史を離れぬ政治と政治を離れぬ文學との融合▼

爰に一言申添へたいことは、西洋の歴史のみならず日本ても今日傳はる所の平家物語や、源平盛衰記、太平記等に依つて日本の歴史の一面が傳へられてゐる。そして日本人を立派に敎へて居るのてある。之は等閑に付すべきてない。尤も是等の著者は事實を根據とせぬから、間違ひは當然てある。唯歴史的の空氣を諒解せしむることが出來る。支那に於ても昔のもの史記、新しきもの水滸傳、之を除けば支那歴史の研究は無效てある。水滸傳と史記は一見して提灯と釣鐘の如くてあるが、その實際上の價値は同等のものてある。日本の外務大臣が此二書を讀まば外交上大いなる間違ひはないてあらう。己れを知るは己れの歴史を知ることてある。英米が支那を東洋の若き共和國などと申して、ほんの愛すべき兄弟と信じて居るかと思ふと、他面に於て支那に資本を卸さぬ。そして日本へ卸したいが承諾するやと尋ねると云ふ風てあつて、大體英米の了見が違ふて居ることが判明つたのてある。吾々は支那の共和とか新政とか申す名に囚はれてはならぬ。日本人が若し支那に對し何等の歴史的知識がないならば、到底支那の眞相を看破し、活きた見識を立つることは不可能てある。

サー・ジョン・シーレー曰く「歴史を離れたる政治は凡俗政治てあり、政治を離れたる文學は凡俗文學てある。それ故に總て實際と關係して行かねばならぬ」と實に然りてある。例へば今日渡邊博士の講演せられたるお話は秀吉と淀君との關係に就てのお話てあるが、實は今日の政治に大いなる關係があるのてある。兎に角歴史なるものを餘りに臆劫に思はず、新聞の延長てあることを忘れぬ樣に致したい。又カーライルが歴史の事實は小說より奇てある。それ故に克く書く人と克く讀む人があれば、歴史は小說以上てあると言ふことが出來るのてある。要するに歴史も小說も、各其の尊き獨特の使命があると同時に、二つのもの相調和して一層靈妙なる光と力を發揮し、最も立派なる尊きものとなるのてある。吾等は此二つのものに對し謙遜、眞摯、忠誠の心掛けを以て當らねばならぬと思ふのてある。(講演大要文責在記者)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

家庭の教育

青山女學院學監　塚本はま子

□活きた家庭教育の意義と□
□兒童の腦裡に浸け込む影響□

私は六人の子供を持ち、長男が三十て末子が十八歳てあります。今より三十三年前御茶の水の學校を卒業して其の後、長い間多くの子供たちのお世話をしたのて、多少の經驗があると存じますから「家庭の教育」に關し陳べて見やうと思ふのてあります。家庭の教育は子供が學校から歸つて來た時、その復習をしてやることを指すかと申すならば、決してさうてありませぬ。凡て知識的に又道德的に感化教育することが最も肝要であると信ずるのであります。若し女中部屋て子供を教育するならば、その女中の性格が自然と移り染まるのであります。又始終接して居る書生や番頭などの性格や性質を見習ふて、自然と其の感化を受くるのてあります。街道などで見聞したことも一種の教訓として子供の心に浸み込むのてあります。それ故に家庭教育は學科の豫習てなく、母が出入商人に對する素振りてあるとか、親族知己に對する應接振りてあるとか、其の他凡有事柄が家庭の教育となるのであります。之を思ふときに如何に子供の教育の大事てあるかを思ふのてあります。

家庭教育は第一に子供の爲めを圖ることてあります。子供を育てるならば己れの爲めとか、財産の爲めとか云ふことは第二第三てあります。只今四十歳、五十歳の人々が社會の爲めに色々と働いてゐて下さるてあらうが、その人々も三十年又は四十年前には子供てある、赤ん坊てあつたのであります。又今の子供は三十年の後學者となり、四十年の後大政治家となり、五十年の後大發明家となると言ふことを思ふときに、一種の言ひ知れぬ感に打たれ、殊に可憐なる子供等に對しては敬愛の念が起るのであります。子供に對し誰れも可愛と云ふ感じを抱くことは、人情の自然てあつて、子供それ自身の爲めに幸福てあります。又子供は何を望むかと云ふならば矢張り幸福てあります。そして父母が此子供を曲らない正しい立派な人にすること、役に立つ有爲の人となすことは、兩親の覺悟一つに依るものであります。

□明暗に依りて行を二つにせざる□
□思想と兒童の驚くべき發達性□

私が或る時汽車に乘つた處が、若い中流以上の奥さんと思はるゝお方が、七八歳の長男と三四歳の次男を連れて居られたのであります。然るにその長男が弟の持つて居る玩具物を引つたくり、頭をはり付けたのであります。その時若い奥さんが長男に私を指して申さるゝのに、向ふに見てお出でになる叔母さんが御笑ひになるからお止しなさいと申されたのてあります。然し此事は些細の様てあるけれども、胸に手を常てゝ克く考ふるならば恐ろしき言葉てあると思ふのであります。人が見て居るから惡をなさぬ。人が見ぬならば惡を行ふて宜しいと云ふ考は、人間の獨立自尊の精神を傷くること

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大であると思ふのであります。善は善なるが故に之を行へ、惡は惡なるが故に之を爲さぬと言ふことでなければならぬことは申す迄もありませぬ。塵にも染まぬ可憐なる子供の心に對する此若き母親の一言が、如何に溶け込むかを考ふるならば、誠に恐しさを感ぜずには居られぬのであります。卽ち前にも申す通り人が見て居らぬならば、不正の事をしても宜しいと云ふことになつて、それが爲めに砂利を食べる、瓦斯を飲むと云ふが如きことは、不思議でないと思ふ様になるのであります。斯くの如き家庭の敎育を受くる子供は不幸なる子供であると言はねばなりませぬ。

子供は實に鋭敏である、又充分に發達すべき力を持つて居ります。心なき人々は、子供は大人を小さくした劣等の者であるかの如く思はるゝならんが、それは大變の誤解であります。御承知の通り子供は頭が比較的大きい。又胴は大きい。手も足も短い。此形の上から考ふるも大人に不可能なる發達性を有して居ります又精神上のことを考ふるならば、子供は知識がある。經驗はないけれども、盛んなる知識を求め、品性を高むべき向上的慾望があります。私の長男で只今三十歳になるのが、五歳の時私共一家族は本郷の西片町に居つたのであります。五月の初旬であつたと思ひますが、私に向ひ庭の松の木を見て、此松の木は何うして生れたかと尋ねたので、私は松の實が地に播かれて松となると答へたのであります所が長男が重ねて尋ねて申すのに、其の種は何うして出來たかと。私は今の松よりも前に在つた大きな松より取つたものであると敎へたのであります。處が長男は尙ほ重ねて、一番昔の最初の松は誰れが造つたかと質したのであります。その時私は驚き且つ行き詰りました。そして母様はそんなことは判明らぬと申したのであります。此長男は今倫敦に居りますが、今日尙ほ此事を記憶して居るか何うかは存じませぬけれども、實に子供と云ふものは、奧妙なる宗敎や哲學に觸るゝ偉い問を起すものであります。

□兒童の惡戲は一の大なる研究□

□自分の事は自分てやる良習慣□

又子供のすることを總て惡戲と申す人があるけれども、それは決して惡戲でない。土を掘つて穴となし、その穴に水を入れることも一の研究でありますから、父親や母親は妄りに制止すべきでないと思ふのであります。吾々の家庭より眞直ぐの人、有力なる人、人格ある人を造り出すには、父母たる者は充分に考へなければならぬと思ふのであります。例へば借金を斷る斷り方、隣家と話す話し方にも注意しなければならぬ。何ぜならば其の一言一行が子供に偉大なる感化を與ふるからであります。或る人は、此多事多忙なる世の中に於て、何も彼も注意とか模範とか言ふべきでないと申さるゝであらうけれども、之を等閑にする爲めに子供のみならず、己れも不幸の身となることを知らなければなりませぬ。電車に乘るのにも、夏期入口の所に頑張つて居つて、風入りの良い所に大きな男が立つて居ると云ふことは、不德義至極の行であります。若し子を持つ父親又は母親であるならば、子供が見習ふことを恐れて之を改むる心が起るのであります。換言すれば親は子供の純潔無垢なる性情を見て之を汚さぬために總ての周圍に注意せずに居られぬ様になるのであります。それ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

故に一々窮屈であるとか、面倒であるとか考ふべきでなく、極めて尊むべき親の任務として取扱ふべきであると思ふのであります。

又世のお母さまたちにお願ひしたいことは、其の子供を役に立つ幸福の子供とするには、何でも自分で出來る仕事をやらせることであります。女の子が頭を結はんとすると、注意深いお母さんや、親切なるお婆さんは之を見て、そんな風では不可い。私が結つて上げると仰せらるゝのであるが、之は大いに考ふべきことであつて、子供には成る可く自分のことは自分でやらせねばならぬ。斯くすれば子供の獨立心を強め、眞の幸福を生み出すと思ふのであります。又立派なる上流の家庭には、子供の室を其の子供に掃除せしむると言ふことは、氣の毒に思はるゝであらうが、それは宜しく子供自身にさすべきであると信ずるのであります。

五本の指と二本の脚があるに拘はらず、此等のことか出來ぬと言ふことは、誠に軟弱極まる事柄であると、一の悲劇であります。昔江戸時代に御大名がありましたが、王政維新となつてそれの資格が無くなりました。その時或る御大名が申さるゝのに、今度は昔の如き面倒な儀式もなく、誠に簡短で都合が宜しいけれども唯昔は部屋を歩くと襖が從者に依つて自然と開いたのであるが、今は自然と開かぬだけが不自由であると申されたとのことであります。私は人間がそれ程木偶坊に育てらるゝものかと思ふときに、眞正なる家庭教育は大いに重んじなければならぬことを考ふべきであると思ふのであります。

□婦人が活社會に通曉すべき任務と□
□子供を完全に育て上ぐべき大使命□

佛蘭西や白耳義の國民が戰爭の慘禍に迷ふて、實に悲慘を極めたのは、種々なる原因はありますが、國民の間に自立自治の精神が缺乏して居つたのも其の一原因かと思ふのであります。兎に角子供を幸福にするには、何うしても自立自存の精神がなければならぬと思ふのであります。又男子の成年の人々に申したいことは、現代の日本婦人は成る程男子に劣るかも知れぬ。然しそれは男子が婦人に何も彼も用を頼むことに依つて、修養勉學の時間を割かるゝからであると言はねばならぬと思ふのであります。

男子の方々も自分の洋服を整理する位のことはやつて貰ひたいと思ふのであります。家庭の主婦たる者が凡有家庭の實際問題に就いて色々工夫し、計畫することが必要であるのみならず、新聞雜誌を見て家事上の問題解決の參考とすることが必要であります、私が三人の男子と三人の女子を教育したことは、學校で皆様にお目に懸り色々と考へ又色々なる試練を受けて自然と教へらるゝ所があつたからであります。

又婦人は家庭の事ばかりでなく、社會は世界の出來事たる華府會議であるとか、疑獄事件であるとか申す事柄に就いて知つて居られねばなりません。又中學や高等女學校にある子女を有する母は、一高の校風であるとか、大學の風潮であるとかにも大體通じて居られねばなりません。又主婦たる者は子供を育て上げることが第一の眞摯事業であることを忘れてはならぬと信ずるのであります。御飯を炊く事や衣物を仕立てることは第二第三の仕事であります。衣物の如きは簡單に濟ませ様と思ふならば實行し得ることであると思ひます。現に私の如きは外出用の着物一枚と內に居る着物一枚で大概通して居るのであります。又學校の父兄會家庭會等に出席して、主任教師と懇談せねばならぬ子供を充分に教育することが出來ぬと思ひます。又子供の爲めを思ふならば、父たる者は勿論、母たる者も進んで社會に出て見聞を廣くし、常に圓滿なる人格を造り上げることに努力せねばなりません。若し父にも母にも子供に對する人格の權威がなくて、子供が父母を誤寛化す樣になるならば、其の父母も子供も非常なる不幸に陷るのであります。要するに子供を善良にすることは獨立自治自存の精神を發揮せしめ、其の個性才能を充分に發揚せしむることであつて、それがやがて眞正なる意味に於て子供を保護し教育することゝなると思ふのであります。故に家庭教育は充分の注意を拂つてなす事が肝要だと思ひます。(文責在記者)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

婦人と化粧

至誠病院長　吉岡彌生

□婦人と容貌

「婦人にとつて容貌は生命から二番目だ」と申しますが、是は眞に餘儀ない事であるかも知れません。よく昔から「婦人は氏なくして玉の輿に乘る」と云ふ諺があります。何故氏なくして玉の輿に乘れるかと云ふならば、大抵は容貌の美しいと云ふ事が一つの條件になつてゐるやうであります。改めて云ふ迄もなく昔の女には經濟上の獨立がありません。職業婦人と申す一階級の現はれたのは極く最近の事で、從來の女は子供を生み是を育てる事を條件にして男子たる夫に養はれてゐました。それ故男子の愛情を惹くと云ふ事が從來の女の最も苦心した處ではないかと思ひます。

「どうしたら男性を惹きつける事が出來るか」と云ふ苦心要求は確かに强かつたに相違ありません。そして事實經驗の上から男子は美しい婦人を愛するものだと云ふ事を知つて來ました。それ故男性の愛情を一身に鍾めやうとする婦人は競ふて美しくならうと苦心をしました。婦人が化粧に浮身を窶すやうになつたのは確かに斯う云ふ處に原因があつた事と思ひます。又一面から觀察すれば、男性女性を問はず斯うした功利的觀念以外に自然に「美を愛する心」もあるのですから、自分自身を一つの藝術品としてそれを研き淸めて、美の化神にしやうとするのは是は人間の本能であるかも知れません。

　それ故、私は化粧に對して非難の聲をあげやうなど云ふ考へは毛頭ありません。けれども我國の婦人は一般に化粧に對する考へが間違つてゐるのではないかと云ふ事を、私は最近一つの疑問として持つて居ります。それは何であるかと云へば、自分の姿勢とか容貌とかに對する徹底した理解がない事です。故に自分の顏容と調和しやうがしまいがそんな事は一向お構ひなしで、ベタ〳〵と白粉を塗りつけてゐます。それは實に滑稽な程であります。

□西洋婦人の化粧

そこへ行くと一般に西洋の婦人には優れた處があります。自分の顏に對する科學的の理解を持つてゐます。自分の顏は正面から見た方がよいとか、横顏の方がよいとか。同じ横顏にしても右の方から見たのがいゝとか、左の方がいゝとか云ふはつきりした理解を持つてゐます。他から見た感じに對してすら是程徹底した考へを持つてゐる程ですから、まして自分の顏の特長とか短所とか云ふ事に就ては驚く程に深い理解があります。それ故西洋婦人でも日本の婦人よりはもつと凝つた化粧をしますが、日本婦人のやうに非科學的非常識なものは至つて稀れです。換言すれば自然の美を損じないやうに否返つて自然の美を發揮するやうに化粧します。何が美しいからと云つて自然の美に優るものはありません。然るに我國の婦人のやうにたゞ白ければいゝと云つ

たやうな遣方で、ペタ〳〵と白粉を塗つて然も自然の美を蔽ひかくして了つたのては何の爲めの化粧か全く譯が分らなくなります。

てすから同じ化粧をするにしても、もつと科學的であつて欲しいと思ひます。私は醫者ですから申すのではありませんが、眞の美は健康の美精神の美に優るものはないと信じてゐます。病弱な爲めに氣息奄々としてゐるやうでは、どんなに目鼻が整つてゐても眞の美はそこに現はれてゐません故に眞の美には健康の美が加はらねばなりません。それと共に其人の人格から流れ出る精神美が現はれてゐなければ眞の美と稱する事は出來ないてせうと思ひます。精神美のない婦人はどんなに立派な着物を着飾つても、どんなに化粧しても何處か一つ缺けてゐる處のあるやうな氣がします。我國の婦人の化粧が此やうに極めて非科學的であるがそれと同時に私は醫者である立場から斯う云ふ事を強く感じます。それは單に美しくならうと思つてゐる婦人に限つて、衞生的には至つて無頓着な事です。打ち明けて申しますなれば、顏に白粉をうんと塗つてゐるやうな婦人に限つて身體を不潔にしてゐる事です。私は特に婦人患者を診察する時に斯う云ふ考へを愈々強く持たせられます。どう云ふ理由によつてゝあるかは私には分りませんけれども他人に見える處丈けを美しくして、見えない處はどうでもいゝと云ふ遣方をするのは文明人のすべき事ではあるまいと思ひます。さう云ふ人を見ると何處か缺けた處があるやうな氣がしてならないのであります。

□何よりも精神美

次に、餘りに化粧に浮身を窶す婦人には何處かしら、精神的に缺陷があります是は理論ではなく事實てすからお互に周圍の人を觀察したらよく分ります。その精神的缺陷は何であるかと云へば『誰かに愛されたい』と云ふ考へを持つてゐる事てす。私は自分の經營してゐる女子醫專の生徒には常に此事を申してゐます。私共は他人から愛される事よりも、此方から進んで愛する事が必要です。愛されやうと計畫するのは弱者のする事てす。私共は新時代の婦人として『可愛らしい生物』である從來の女の殼を脱がなくてはなりません。そして男性からも女性からも尊敬されるに足るやうな立派な婦人になる事に努めねばなりません。

私は長い間、女學生に接觸してゐる關係上強く此一事を考へざるを得ません。顏に白粉を人一倍塗つたり、派手な衣裳を着たりして學校へ來る者は、どうも學課の成績が惡いやうです。そしてこんな方面へ頭を突つ込んでゐる結果學問の方面には熱心になれないのでせう。

是はやがて學校を離れて社會に出てからの運命をも暗示してゐるのではないかと思ひます。どうしても眞の仕事をしやうとするには、さうした餘り重要ならざる屈託を放棄して了つて一身を打ち込んでやらねば駄目なやうです。學校に於て劣敗するやうな生活は、やがて社會に於ても劣敗する生活に相違ありません。斯う云つたからとて私は決して化粧の全廢を主張するのではありません。美しくなる事は醜い事よりは更によい事であり、同時に人情にも協つた事てすから此點に於て私の主張に誤解のないやうに願ひます。(談、文責記者にあり)

編輯の後

□吹き捲くる不景氣風に、付ては生活難と云ふより贅澤難に苦しんでゐた無産階級も、近頃の様子ではどうやら衣食住に脅かされて來たらしい。斯うなると彼等唯一の安價な娛樂として無くてはならぬ居酒屋のコップ酒も、縁遠いものになつてゆくと屢々喚辞を洩らすのが聞かれる。それにも增して苦しいのはブルジョアの遊び場、金持場たる花柳界で何處も同じ不景氣さに火の消えたやうだと都も鄙も押しなべての各新聞が報道してゐる。

□それに又、お目出度うと云ふべきか。御愁傷と申すべきか知れないが、斯かる不景氣に搗てゝ加へて藝妓の自由廢業が續出して來たと云ふ。其の原因は云ふ迄もなく先頃宮城控訴院で其の方面の新判例が出たのに刺戟された爲めであらうが、不景氣の爲めに血の汗を絞るやうにして取つた金を棄てに行くやうな馬鹿者がなくなつて來たにもよるだらう。

□關西方面では此爲めに各抱主が大恐慌を來たし、裁判沙汰となる向も尠くないさうだが、東京では辯護士布施辰治氏などの處へも廢業しやうと云ふ藝妓から續々問合せが來るとの事。右に就て當の布施辯護士の語る處は斯うだ。『あの判決例が出てから警察へ自由廢業願を持ち込む者の急激に增加したのは事實です。それらの中には眞の意味に於て自覺した者、即ち自我に目醒めて廢業をする者もありますが、一方では淺薄な考へから將來の事迄考慮せずに一時の流行的氣分でやる者も多いのです。がこれを機會として自分達は今後も精神的にも肉體的にも解放運動を續けたい。そして彼等の眞の自覺を促したい。』

□兎に角、何が何と云つても『日の本は岩戸神樂の昔より女なくては世の明けぬ國』と見える。今度の內閣は非待合政治を實行すると聲明してゐるさうナが、貴族院で綱紀肅正とやらを叫んでえらい評判であつた何やら大臣も、赤坂の何とか云ふ愛妾の宅から自動車で毎日登省してゐると云ふから、満更不粋者の寄合ひでもないからすてたものでもないと、褒めたのやら貶したのやら分らぬ事を云つてゐる者がある。こんな不仕鮮な事ぢや何時になつたら綱紀肅正が出來る事やら、情ない事である。

□過日、四谷津の守の藝妓家小松新抱福太郎（二二）福千代（一六）の兩人が突然其筋から營業停止を命ぜられた。どんな理由によつてかと聞いて見た處、何の事だ同區信濃町に住む野崎男爵の令弟某が勤務演習に召集されるのでお祝ひ？……のだとあつて、友人數名を右男爵邸に招き晩餐會を開いた。其の際右兩名の藝妓をよんで飲めや騷げやの大亂痴氣を演じ、足腰立たぬ迄に酩酊させ、泊めさせたのか乃至自分から進んで泊り込んだのか知らないが、兎に角泊つたのが理由で此命令に接したのださうだ。更にその泊つたのもよく內情を調査して見ると何かしらそこに怪しい問題が潜んでゐるとの事である。是て皇室の藩屏もないものだ。あきれて物が云へないと云ふより外に言葉がない。

□港の女郞、船着場の遊妓——と云ふと太府詩趣に富み旅情に豐かなやうに思はれもするが、その港である淡路通ひの汽船を洲本の濱に乘り棄てた時、先づ其の玄關口に見るものは細帶一つの赤い湯もじ、半ば胸元あらはに、剝げかけた白粉やけの顔、崩くたれ髮をガックリ崩して、見るからにしどけない醜態の姿、之れでは港に着く旅人をして詩も詠はせれば絵筆も執らしめまい。洲本玄關口の遊廓は八十腐肉の女が淫猥しい巣を造る處、ガサツな線と極端に毒々しい色彩で上陸者の目を反けしめる。

□是に對し洲本では最近『遊廓移轉問題』が喧しく叫ばれるやうになつて來た。同町婦人界の有識階級によつて組織されてゐる基督教婦人矯風會では『洲本の町の一番大切な處に餘り大切でもないものがある。町の體裁は素より一般風儀は此處から紊れ、洲本の子弟教養は此處に基礎を危うする殊に公娼廢止を大呼する基督教婦人矯風會としては其の第一階梯としてでも此の醜惡な遊廓に別の隔離地帶へ移さなくてはならぬ』と盛んな移轉運動を起してゐる。

□同支部の稻本とき子門田れつ子氏等外三十名の會員が中心に『移轉必要』の趣旨を説いて廻り、千五百名の賛成調印を得たので『洲本遊廓移轉請願書』を携へ千葉縣會議長や知事代理本間警察部長に會見、該請願書を提出して引揚げて來たとの事である。

□其他前號にも掲載した通り、同じ船着場である佐渡二見遊廓も風俗問題やら教育問題やらで、移轉立退きの運動を喰つてゐる。吾々は斯うした絶叫の益々高くあげられん事を切に祈る。

□婦人矯風會大阪支部の林歌子女史は常に侃々諤々の論を主張し、眞に一騎當千の猛將として其名を知られてゐるが、今秋ヒラデルヒヤに開かれる萬國婦人矯風會大會に日本を代表して出席する事となり、先月廿四日の横濱解纜の西伯利亞丸で渡米したが、歸路は歐洲に渡り各地の婦人事業を視察して歸るさうだ。

□女史の洋行の意が決するや、日頃の勞に酬ゆるは此時とばかり大阪の會員は金參千圓を始めとし、擧つて女史に必需品を贈る事約二百餘點、旅行準備の中には紹の紋附あり金紗縮緬の被布あり、時計手提香水裝身具等數限りもない有様『六十歳になつて始めて見るやうな物許りです』と出發の際、嫻々たる眼眸に喜びの皺を寄せてにこ〳〵してゐた。幸に御自愛を祈る。

□暑い。實に暑い、眞夏だ。讀者諸氏の御健康を祈つて筆を擱く。（石井生）

大正十一年八月十日印刷（毎月一回十日發行）
大正十一年八月十日發行（一部定價金二十錢）

編輯兼發行人　小石川區大塚仲町四十一番地　伊藤秀吉
印刷人　本郷區眞砂町三十六番地　佐藤駒次郎
印刷所　本郷區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會本部
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

酒きらいになる藥

禁酒丸

一週分 一圓五十錢
二週分 二圓八十錢
三週分 四圓

どんな酒煙草のみでも害なく心からきらいになる。

郵券二錢送れば說明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論呈進

禁煙散 煙草きらいになる藥

金壹圓 金貳圓 金參圓

本舖 大阪靭南通二丁目 森田商店
電話土佐堀二六〇二番
振替大阪二二一二六番

產婦人科。小兒科

女醫 鷲山改め 吉岡彌生

△院長診療 宅診午前 往診午後
△醫員診察 午後

產室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地
東京至誠病院
電話九段二三三一番

建築設計

総て建築は設計せずに成すは大層な損です、なれど其設計料が少しの金では出來ぬために知りつゝも無設計でなさぬ方が隨分多いようです、依て當局では之等を思ひ建築成さんとする方々のために、遠近を問はず實費を以て御依賴に應じますから、無御遠慮御問合せ下さい

東京市神田區淡路町
中央建築局
電話神田二〇〇・(長)四〇〇

◉御注文の際は必す雑誌「廓清」による旨を申添を乞ふ◉

藁屑となりて送る世の中を寶玉の如く送れ世の人

寶玉となるべき人は健腦丸常に用ゆる腦の良き人

健腦丸

島村醫學博士
有効證明

最良なる
腦病神經病新藥

主効

◉腦病　◉腦充血
◉腦膜炎　◉神經痛
◉腦貧血　◉眩暈
◉便祕　◉中風
◉耳鳴　◉健忘
◉搐搦　◉頭痛
◉卒中　◉逆上

◉健腦丸を常に少量づゝ持藥とせば逆上を引下け、便通を心能くし、恐るべき腦充血を全治し、中風、卒中を未發に防ぎ記憶力を増進する特効あり。

（藥價 一日分十錢、三日分廿錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金二圓）

本舗
大阪市心齋橋貳丁目 丹平商會本店
東京市日本橋區箔屋町 丹平商會支店

□本誌は信用なき卑猥なる廣告は一切謝絶す□

◉廣告主への御用の際は必ず雜誌「廓淸」によると御申添を乞ふ●

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可）（大正十一年八月十日印刷納本）（毎月一回十日發行）

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori, Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

——→Dr. K. TAKATA←——

Within a few minutes from the Chigasaki Raiway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone: Chigasaki No. 2.

副長（新任） 醫學士 岡本金雄

診察毎朝（但祭日及日曜の他）

院長 診察、月、木、金午前及木午後六時

林、谷間兩副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地（市ケ谷見附上）

電話九段（六六二番 六六三番）

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

南湖院

電話ちがさき二番

相模國茅ケ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後 入院診後應需

診察毎日午後 但祭日及日曜の他

◎募集——看護婦志願者及雜事婦

定價一冊金二十錢

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY